

姉崎古墳群

姉崎古墳群(上海上首長墓群)

今富塚山古墳	全長120m	前方後円	築造	4世紀後	
天神山 //	// 130m	//	//	4世紀後	県指定史跡
二子塚 //	// 110m	//	//	5世紀中	県指定史跡
釈迦山 //	// 93m	//	//	4世紀後	
山王山 //	// 70m	//	//	6世紀前	発掘消滅
原一号 //	// 70m	//	//	6世紀前	発掘消滅
鶴窪 //	// 60m	//	//	6世紀後	市指定史跡
堰頭 //	// 45m	//	//	6世紀後	
六孫王原 //	// 45m	前方後方	//	7世紀後	

その他の中小古墳

富士見塚古墳	円墳	発掘消滅
御社 //	// 三基	現存
妙経寺 //	//	発掘消滅
原二号 //	前方後円墳	発掘消滅
外郭 //	//	古墳上に椎津城築城
徳部台 //	方墳	消滅 (姉崎唯一の方墳)

他に中小の古墳(主に円墳)多数が確認されています。

その殆どが開発などにより消滅した。

墓の大きさを首長の国の力を他の国に見せつける
支配力の象徴と思われる

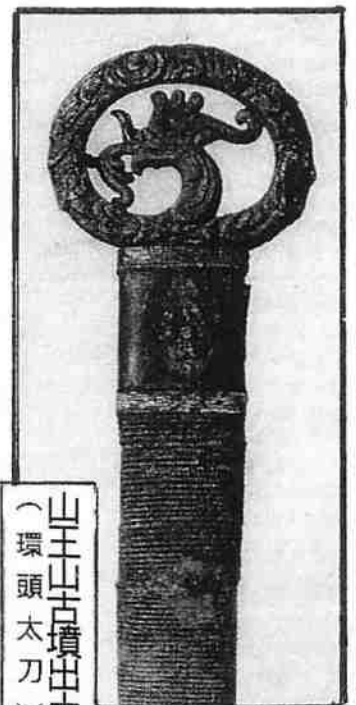
(上海上首長墓群)



二子塚古墳出土
石枕(国重要文化財)



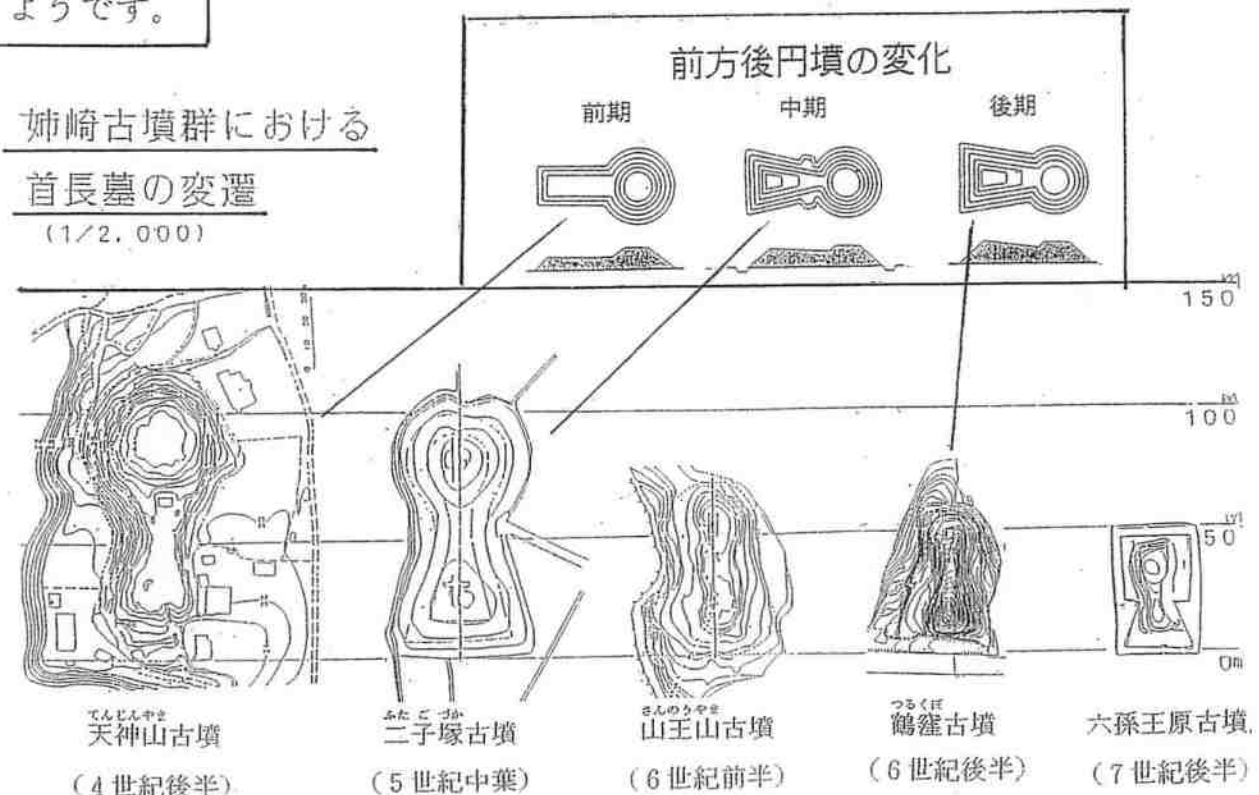
鶴窪古墳出土
(円筒埴輪)



山王山古墳出土
(環頭太刀)

姉崎古墳群は、市原市今富から姉崎神社周辺に分布している古墳群です。市原市内には、大小合わせて1000基を超える古墳があり、4世紀から7世紀の間に造られています。その中で大型の古墳は、非常に数が少なく、長さが50mを超える前方後円墳・前方後方墳は20基ぐらいで、100mを超える古墳は3基です。そしてこれらの大型古墳の半分ぐらいが姉崎古墳群に集中し、特に100mを超える前方後円墳は、すべて含まれています。このような大型古墳が、姉崎地区に集中して造られたということは、当時この地域に大きな権力を持つ首長が出現したことを意味しています。古墳の規模は、被葬者とその後継者の力によって左右され、大型の古墳を造ることができるということは、それだけ大きな力を持っていたことになります。現在では、この大型古墳に葬られている首長たちは、後の「上海国造」とその祖先たちと考えられています。

古墳群の構成は、9基の大型古墳（前方後円墳8・前方後方墳1—六孫王原古墳）と中小の古墳からなっています。古い方から今富塚山古墳・天神山古墳（4世紀後半）、釈迦山古墳（4世紀後半）、二子塚古墳（5世紀中葉）、山王山古墳・原1号墳（6世紀前半）、鶴窪古墳（6世紀後半）、堰頭古墳、六孫王原古墳（7世紀後半）があり、六孫王原古墳を最後に姉崎地区での首長墓造りは終わったようです。



○ 天神山古墳 (千葉県指定史跡)

前方後円墳 4世紀後葉 未発掘(測量のみ)所有、菅原神社、姉崎2489

- 全長約130^m 前方部 中50^m 高さ7^m
後円部 径67^m 高さ12^m (前後高低差5^m)
 - 前方部が後円部に比べて中、高さ共に小さい。
古い時期の古墳の形態。
 - 県内で2位、市原市々内では最大の大きさ、姉崎古墳群では最初の頃に築造されたと思われる。県内1位は富津内裏塚古墳(全長144^m)
 - 当時養老川下流域の勢力が重要な位置を示す、首長墓と見られる。
墳丘くびれ部に菅原神社があり地元では天神山の名で親しまれていた所から天神山古墳の名称がついた(別名天塚古墳)
 - 出土品、埋葬施設は不明。
 - 墳丘上は現在桜の名所として有名である。
 - 墳丘は台地、高台にあり絶好の眺望の位置にあった。
 - 段高は前方2段、後円3段の築成で一部は現存する。
- ⑨ 古墳南側隣接に姉崎台遺跡がありその中に姉崎台貝塚、古墳(円墳径12^m、円墳径20^m、前方後円墳33^m)

東原遺跡(弥生中期-古墳時代の多くの住居跡を発掘した)等が確認された。



○ 釈迦山古墳 (平成7年確認調査)

前方後円墳 4世紀後葉 全長93m

前方部 巾32m 高さ8m

後円部 径57m 高さ12m

古墳の名称は戦前墳上に「お釈迦様」を祀ったお堂があった事に由来する。

後円部と前方部の比高差4mという。古墳の形態から古い時期の築造と推定される。

出土遺物 土師器 管玉 鉄 刀子

埋葬施設は木棺と粘土でくるんだものの一部が確認された。

(櫛内部は未調査)

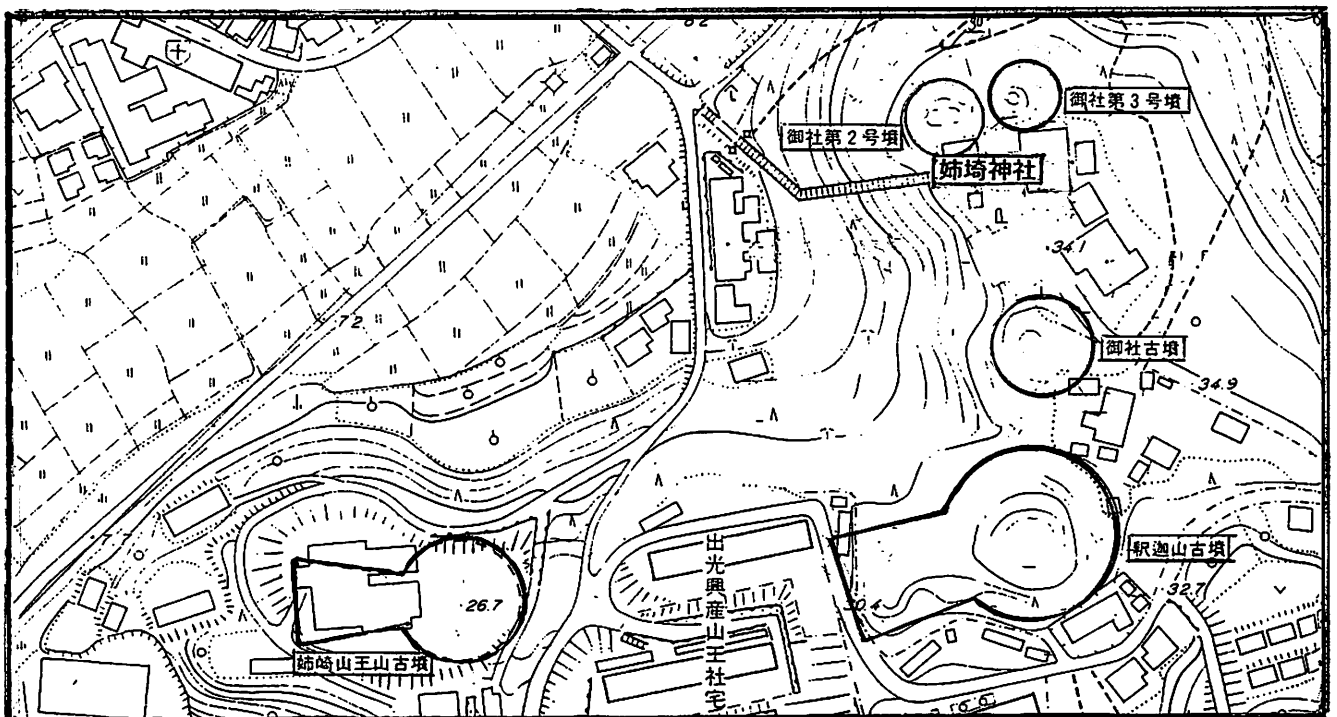
後円部墳上部から近世の瓦、寛永通宝(賽銭か)がまきまつて出エした。

(釈迦堂に関連だろうか)

前方部北側が人工的に大きく削られた整地跡が認められる。

(中世頃の遺物出土)

くびれ部に巾約1mの道路が横断している

墳の南東側に姉崎神社の宮司である海上家の奥津城(墓所)と^{おくつき}なっている

○ 鶴窪古墳 市原市指定史跡 6世紀後半

前方後円墳 一部発掘(昭和56年) 全長60m

前方部巾25m 高さ4.2m 後円部径13m 高さ4m

前方部東側は道路で削られ 後円部西側斜面盛土の崩壊が見られる。
前方部の中にくらべて 後円部の径がきわめて小さい 関東では類例のない形状。

墳丘は盾形をなす 下段墳丘長さ60mと前方後円の上段墳丘長さ45mとの2段築成という稀有な構成をもっている。下段墳丘は地山の削り出しによって形成(上部テラス面が広くとられている)され上段墳丘は盛土によって構築されていると推定される。

他の古墳は前方部が西側か北側に向いている中、鶴窪古墳のみ唯一、前方部が東側に向き構築されている。

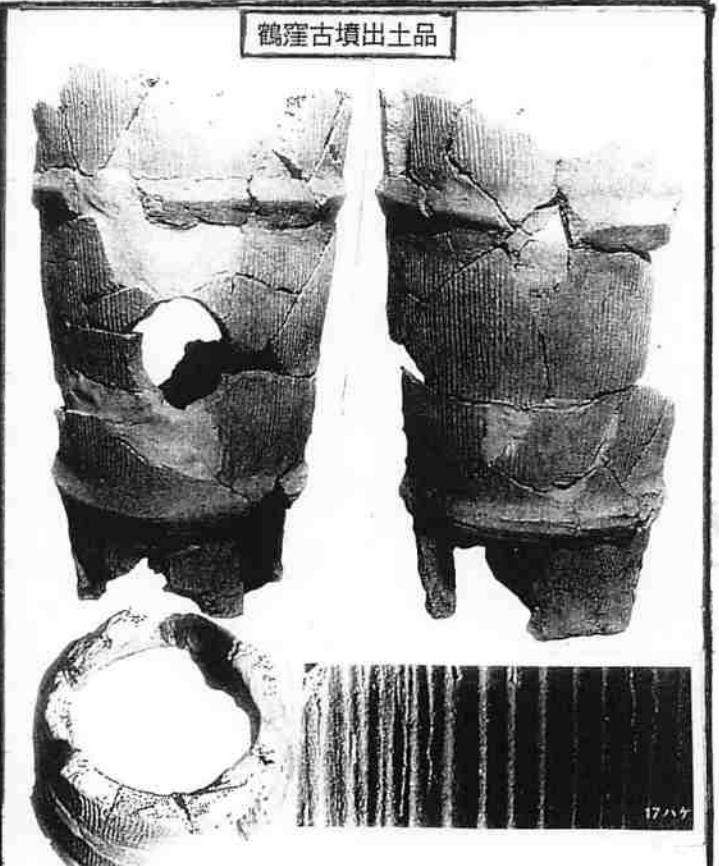
二重の円筒埴輪列を推測。円筒埴輪の特徴から下総型埴輪が用いられている。(長距離供給の例か)

古墳築造された6世紀後半代における地方支配の実体を考える上で重要な古墳とされている。

① 山倉1号墳の埴輪は埼玉県鴻巣市生土塚(下総)の窯で製作され、約80kmも水路運搬され供給された事が確認されている。



鶴窪古墳全景(東上空から)



○ 二子塚古墳 (千葉県指定史跡)

前方後円墳 5世紀中葉 姉崎 1762

全長 110^m (前方部長 54^m (後円部径 52^m)
 " 巾 46^m 高さ 9^m (" 高さ 9.8^m)

古墳群の中では最も著名である。

前方部と後円部双方に埋葬されていたらしい

(木棺直葬か土壙によると推定される)

周濠があつたと推測される (参道と古墳への橋跡、周辺窪地)

推定復元されると巾20^m~40^mの溝が廻り周溝を含めると全長160^mに達する首型と思われ壮大な古墳となります 墳丘には円筒埴輪

が二段にめぐっていた

墳丘は標高約3.5^mの海岸砂丘に立地しているよく目立ち美しい形であつたと思われる (応神陵に似た形態と言われる)当墳1.5^{km}範囲に前方後円墳1基、円墳10数基があつたが明治末期鉄道工事のために破壊し消滅している。当墳はむぐら堰(青葉台)を堀り上げた土で築造したと言ひあり丘陵地から平地に移った稲作農耕の大型化と思われる

出土副葬品

石枕(国指定 重文)
 円筒埴輪、銀製腰佩
 武器、武器、鏡
 耳飾り、玉等他

優れた数多くの副葬品
 は朝鮮半島を経てきた
 大陸製と思われる
 (石枕は後円部から出土)



オクマン様

二子塚古墳では、上下二段に円筒埴輪がめぐらされていきました。前方部北側上段の円筒埴輪中からは、古墳中期に属する土師器高杯片が発見されました。死者に食物を上げた容器なのでしょう。

市内の古墳から、円筒埴輪の出土する例は少なくありませんが、形象埴輪は数えるほどしか見つかりません。

姉崎の最頂寺では、人物埴輪をオクマン様(熊野様)として祀っています。この埴輪は内房線建設工事のとき、破壊した古墳から出土したものとされています。

○二子塚古墳の名称は地名のニタ子に由来する。

墳丘を測面から望むとあたかも獅子が伏せているように見え、里人は獅子塚とも称している。

この塚の周囲を駈足で七回りすると塚の中から剣劇の響きが聞こえてくると言う言い伝えがある。

初代上海上国造(忍立化多比命)

忍立化多比命(上海上国造)は天穗日命を祖とする天照大神の子孫であると古事紀上巻に記載されている。国造本紀によれば13代成務天皇の御代上海上国造として任命された。

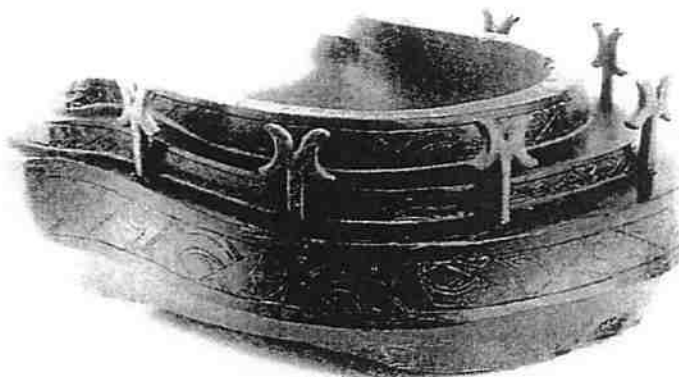
○二子塚古墳は、初代上海上国造、忍立化多比命を埋葬した墳墓ではないかとの説がある。

姉崎二子塚古墳出土の石枕(古墳時代)

古墳に埋葬される人の頭部に枕として使用した石製品で、石枕には石棺に造り付けたもの(主として西日本)と単独のもの(主として東日本)があります。二子塚古墳例は後者の代表的な作例で、古墳時代特有の直弧文を側面に刻み、立花と呼ばれる飾りを立てた優品であることから、国の重要文化財に指定されています。この石枕は、現在国学院大学の所蔵となっています。



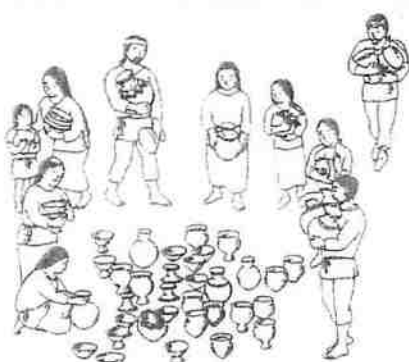
二子塚古墳出土銀製耳飾り



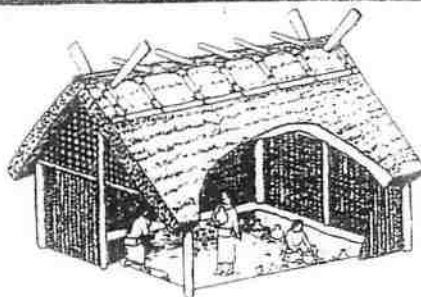
二子塚古墳出土石枕一複製品一(重要文化財)

○戦時中、松根油採取のために墳丘を掘ったところ、石枕が幾つかの副葬品と共に見つかりました。

市原市神門4号墳の発掘成果をもとに葬儀の様子を復元したものです。



1.「ムラ」「ムラ」から土器を持ち寄る



2.仮設の建物の中で「祭祀」を行う



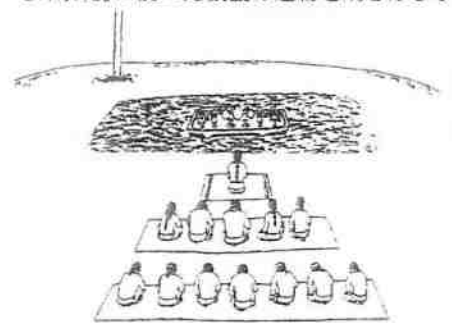
3.「祭祀」に使った仮設の建物を焼きはらう



4.「大柱」を建て、盛土して墳丘を築く

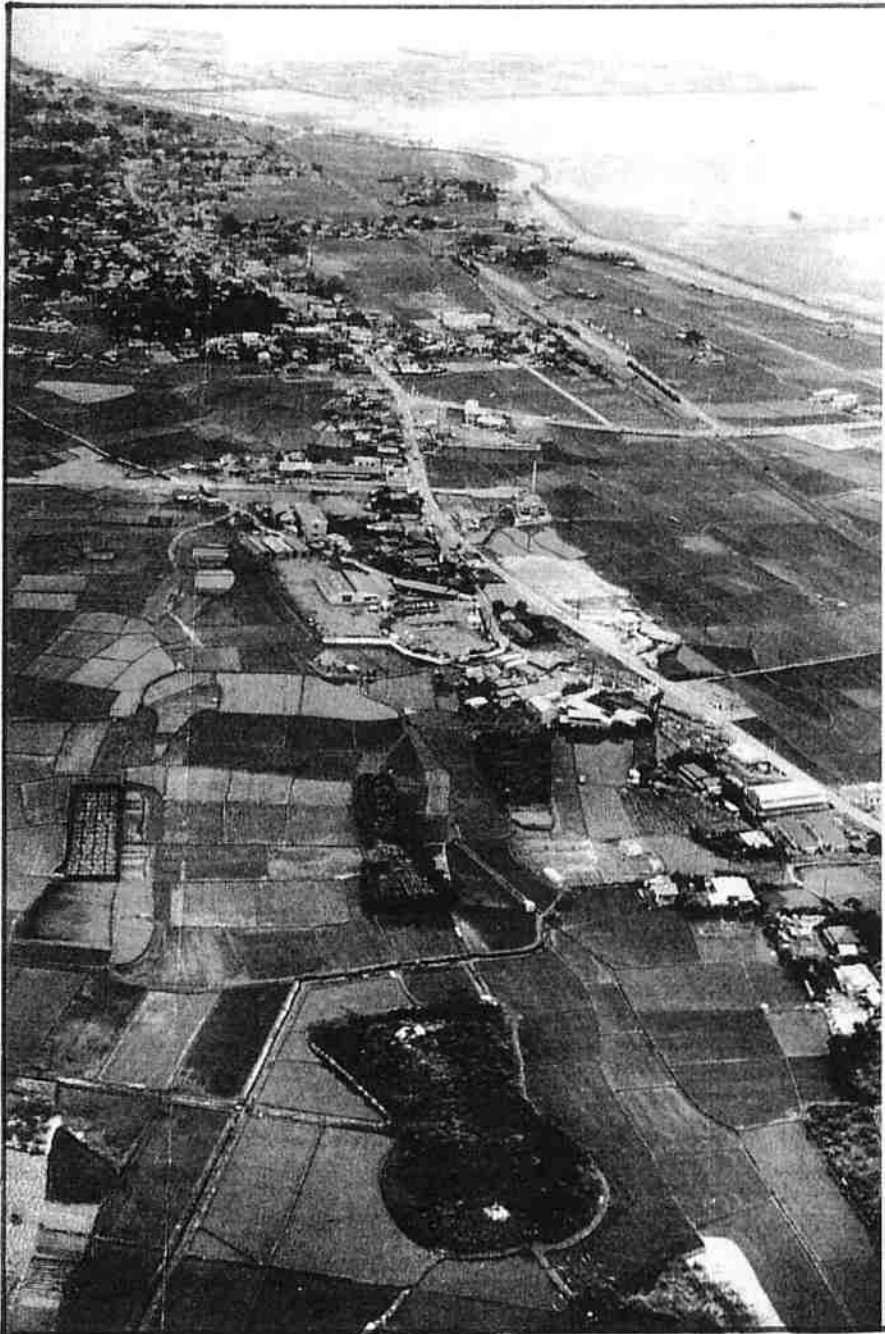


5.棺を納めた後、土を破碎して撒く

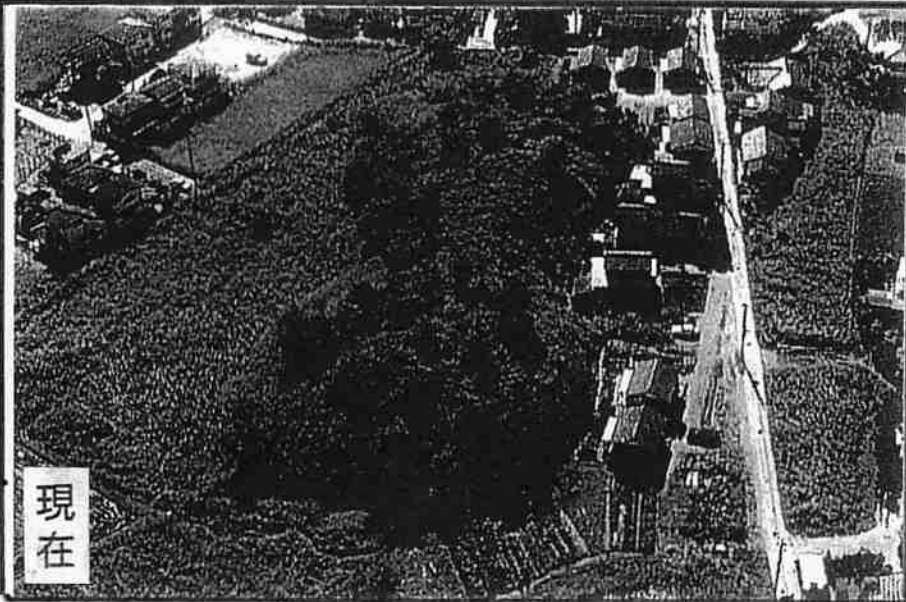


6.墓坑を埋め戻して、献げ物を行う

姉崎二子塚古墳



1961(昭和36年)



現在

○ 山王山古墳 発掘調査後消滅(昭和38年)

前方後円墳 6世紀前半

全長 70^m 前方部巾 45^m 高さ 7.5^m

後円部径 35^m 高さ 8^m

埋葬は墳頂下 2.6^m の粘土槨長 9^m 巾 3.5^m に組合せ式木棺が収納されていたと推定されている。

(木棺は長 7^m 巾 1.5^m 深 30^{cm} 棺底巾 95^{cm})

古墳から素晴らしい遺物が出た。なかでも金色に輝く天冠と頭につけた豪華な死者の右脇に添えられていた。

金銀に包まれた華麗な飾り大刀と合わせて 45 本以上の矢を納めた金銅胡弓が、この古墳の被葬者の武人的性格を象徴するものとされています。特に横向き竜の頭部をあらわした金銅製環頭を柄の先につけ鞘は文様を打出した銀の薄板で包んだ銀装環頭大刀は保存状態が良いことも相まってこの種の飾り大刀の中でも一級品で際立って存在です。

出土遺品

銀銅製 環頭大刀、胡弓、鉄鍬、青銅製冠。

銅製耳環、櫛、小鏡、刀子、鉄刀

外部施設として墳頂部及墳丘中段に埴輪列が確認され、

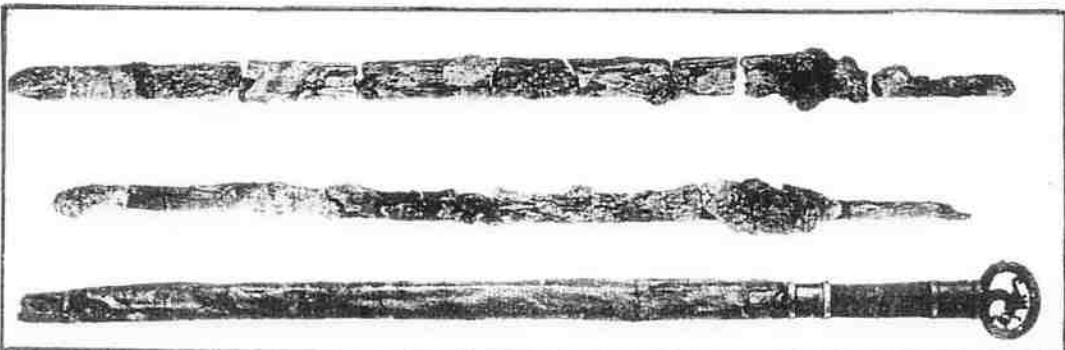
人物埴輪破片、動物埴輪片が発見されている。

① 昔、墳丘上に山王権現が祀られていたところから山王山といわれた。姉崎に言い伝えられている昔話「おさん狐と城山狐」の始まりは、この山王権現の祭りが舞台と言われています。(資料は椎津城跡編に記載)

② 墳丘は昭和38年発掘調査後に消滅した。南側面は現在支所・姉崎公民館・保育所が建っている。



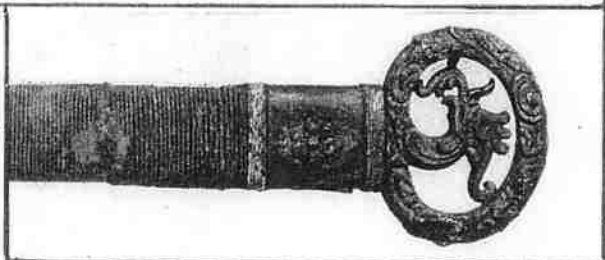
発掘前の山王山古墳全景(昭和36年) 現 姉崎公民館



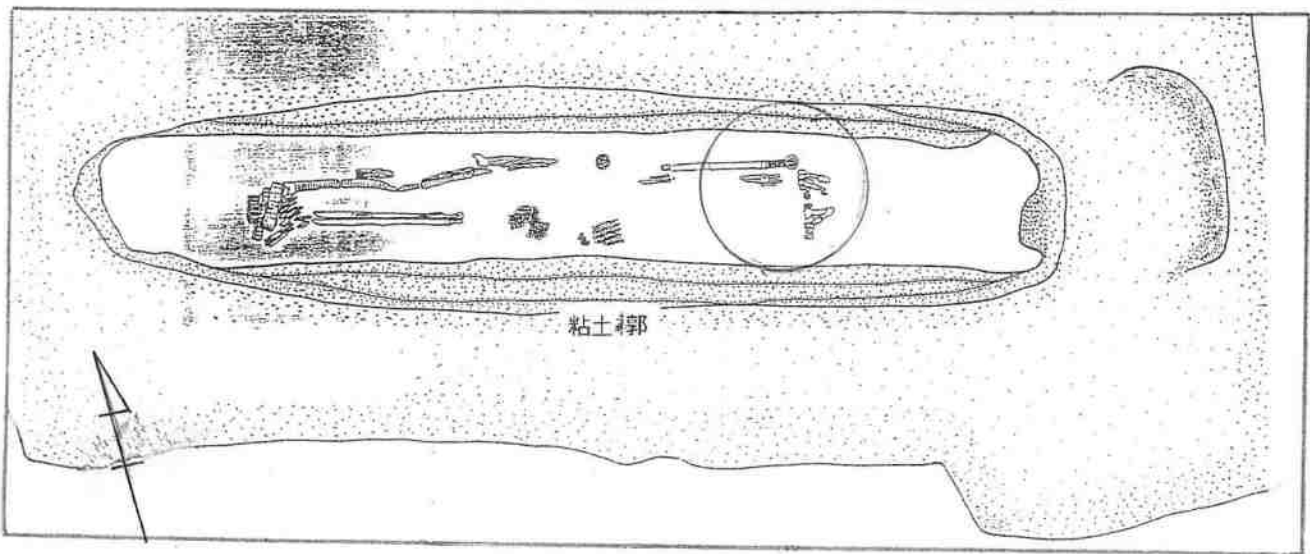
木装太刀

環頭太刀

山王山古墳出土幅葬品



部分 柄頭



粘土埴

姉崎神社 境内古墳

○ 御社古墳 円墳 径 21^m 高さ 2.5^m

未調査 保存状態良好

別名 宮山古墳 頂部に大山杵神社を祀る。

墳丘上に数本の楠木が立っている

○ 御社2号墳 円墳 径 18^m 高さ 1.5^m

未調査 別名 白浪古墳

高さが低平な形状から古墳時代初期の築造と推定される
近世以降 各所を削り取られ旧状をとどめない。

(神輿庫 } 造営のため削平
 展望台 }
隣接の富士塚築造の際の用土削り取り)

頂部に日本武尊 白浪御上覧記念碑

金比羅大権現石碑

展望台跡等がある

○ 御社3号墳 円墳 径 10.5^m 高さ 3^m

未調査 富士塚

近世古墳とそのままに上に盛土をして富士講による富士塚を築
いている。盛土の用土は隣接の2号墳を削り用いたと推定
される。頂部に浅間神社を祀る。

⑤ 宮山台地 姉崎神社 焼失の後発掘調査の際、弥生時代
後期及び古墳時代後期の住居跡が9軒検出され、当時この
地に集落があったと推定される。

- 六孫王原古墳 7世紀後期 全長45.4^m
 前方後方墳 前方部 中25^m 後方部中27^m
 前方部 高1.6^m 後方部高2.8^m
 周溝(長方形)中7.4^m 深5.1^m強 軸長5.1^m
 出土遺物, 金銅製馬具片, 鉄製刀
 埋葬施設は後方部, 切石積, 横穴式石室(玄室)
 後方部南側面, 開口(羨道入口)
 墳丘南側部分の大幅な削平
 施設本体の破壊によって規模は不明確
 姉崎古墳群, 唯一前方後方墳と言う
 墳丘で歴史上重要な遺跡である。
 姉崎古墳群中 最後期の首長墓とされている。

- ⑨ 近くに六孫王原遺跡
 弥生時代後期から
 古墳時代にかけての集落
 跡, があり隣接の毛尻
 遺跡, を含めて102軒の
 堅穴住居跡を検出し
 ている。上海土国造の
 本拠地とも考えられている。



- 原1号墳 6世紀前葉 全長70^m 発掘調査後消滅
 前方後円墳 前方部 中32^m 後円部径36^m
 " 高6^m " 高5.7^m
 木棺直葬 円筒埴輪列 周溝中8^mがめぐる
 墳丘の規模 前方部の発達の度合 埴輪型式等, 山王古墳と
 類似する事から 実年代も接近していることを思わせる。
 出土副葬品 鉄刀, 刀子, 鉄鍬。

○ 堰頭古墳 (別称小谷古墳) 未調査 青葉台4丁目

前方後円墳 全長45.4^m 保存状態良好

前方部 巾22^m 高さ3.15^m

後円部 径25^m 高さ3.5^m

○ 椎津^{とさわ}外郭古墳 未調査 椎津城跡内

前方後円墳 全長80^m 円筒埴輪出土

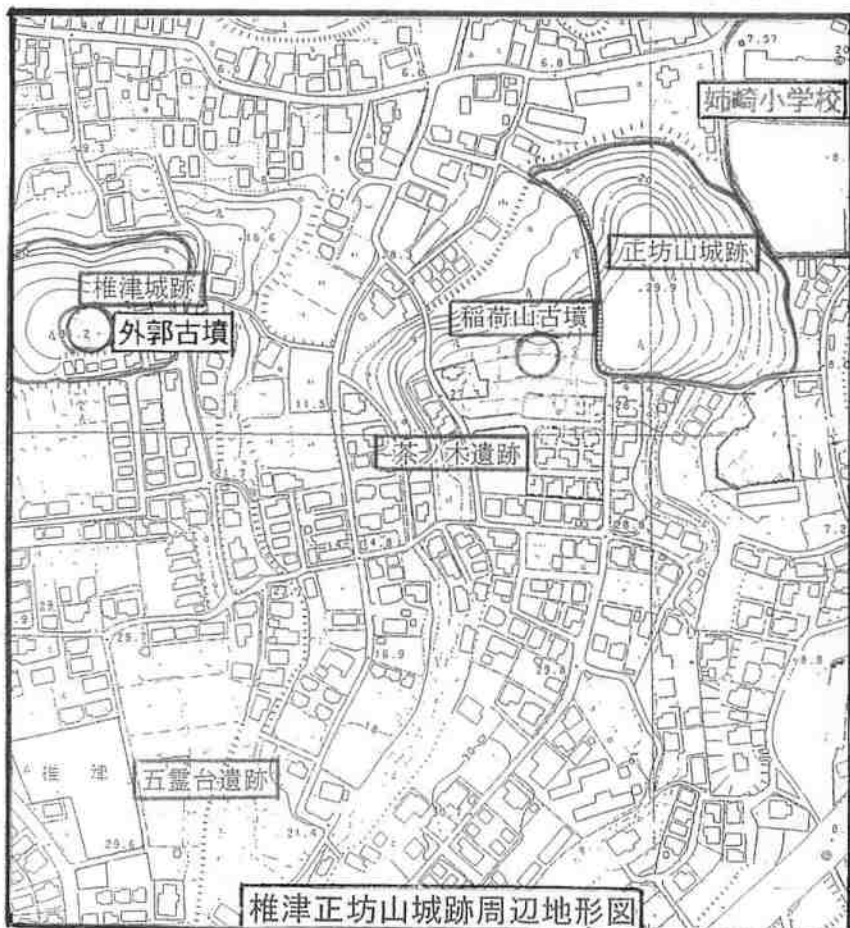
3/1^mの高台に築いた古墳上に 椎津城主郭が造られ墳丘は
 改変されている。

○ 椎津稻荷山古墳 未調査 茶の木遺跡内

円墳 全長22^m (41^mと推定される)

周溝の一部推定 須恵器、大甕を出土。

④ 注 茶の木遺跡 古墳時代～平安期の住居跡、157軒を検出。
 大規模集落跡と見られる。



椎津稲荷山古墳

椎津正坊山城跡周辺地形図

○ 富士見塚古墳

円墳 径 2.5m

高 3.5m

木棺直葬と推定

平右衛門作。支墳群の主墳墓と考えられる。

優れた出土遺物が山王山古墳との類似点から埋葬者は山王古墳の首長の統率下にある上位の人物ではないかと推定される。

埴輪の樹立はなかつたと推定される。

富士見塚古墳遺物出土状況

副葬品としては、下記のものが検出された。棺床と思われる部分の南縁からは長軸線に沿い鋒先を西に向けて直刀一が、直刀に接して棺床の両端からは、鉄鏃二〇本を束状に収納した鉄地金銅装の胡録一が出土した。さらに北縁からは、鏡面を上に向けた白銅製小形仿製鏡一が、鹿角装刀子一を下にして出土した。その他、鉄斧一、刀子残欠一、鉄鏃二が検出されたが、この鉄鏃二は出土状態からみて、前記の胡録から移動したものである。副葬品のうち胡録は上下二段の帯金具があり、上段の帯金具には二箇の吊金具が着装されていて、帯金具・吊金具の裏面にはそれぞれ麻布片の付着が認められた。当該地域における胡録の出土は、近接する山王山から同種の出土例がみられ興味深いものがある。

○ 徳部台古墳 調査前消滅(青葉台4丁目)

二重周溝裾部に凝灰砂岩積 丙袖式 横穴式石室 未調査のため規模不詳 姉崎古墳群中 唯一の方墳

○ 木戸窰古墳 調査前消滅(青葉台4丁目)

墳頂に粘土槨2基、直刀片、銅環、小玉、人骨(歯)片と出土、円墳未調査のため規模不詳

⑧ 原1号、2号墳、六孫王原墳から最後に徳部台方形墳とつて首長墓の系譜は終つたと推定される。

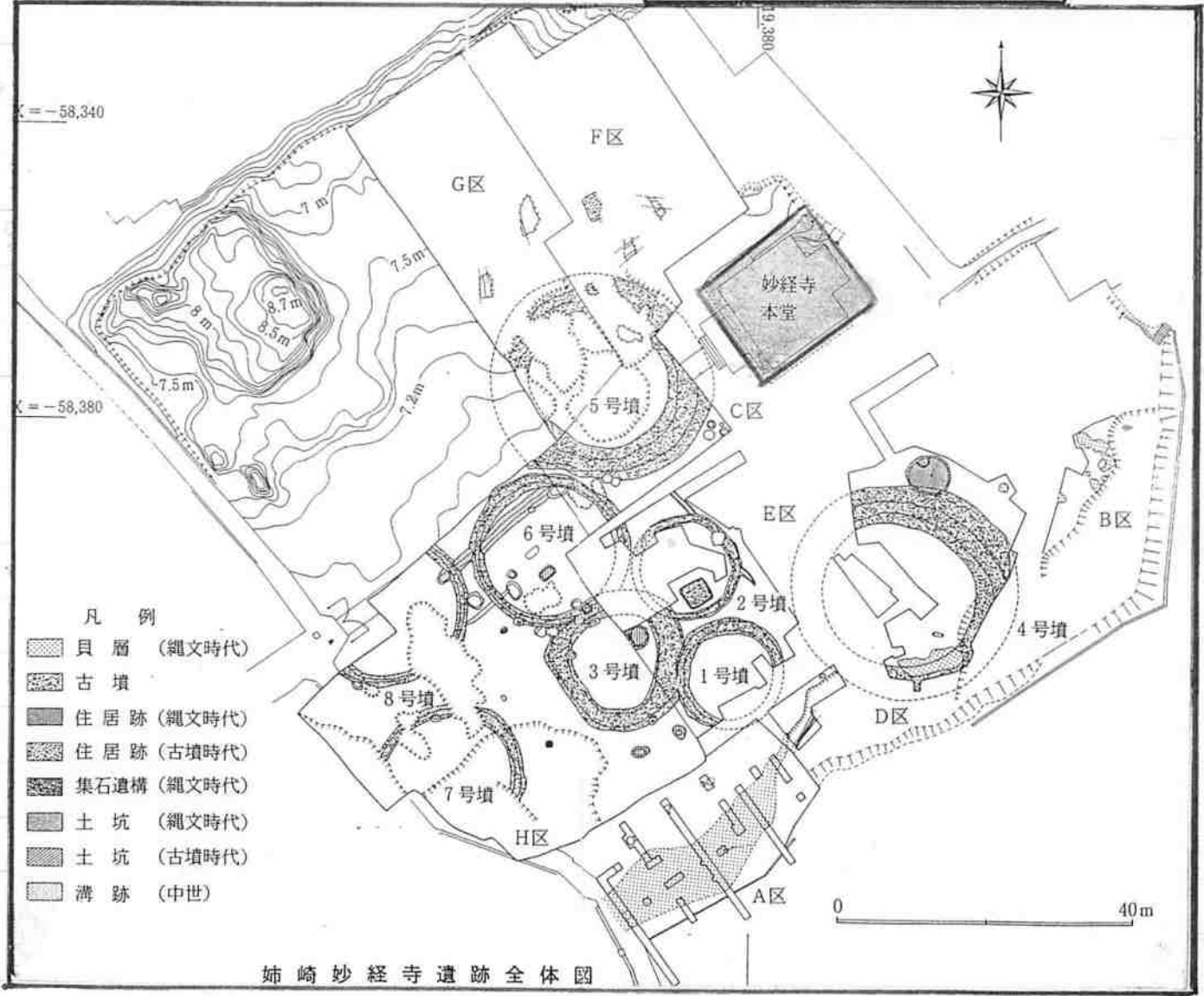
○ 姉崎妙経寺遺跡、古墳

○ 5号墳 6世紀初期 円墳
内径17m 周溝巾5m

○ 5世紀前半頃から7世紀頃迄約200年
以上の間 古墳が造られていた。
現在11基が発見されている。
縄文中期の大規模貝塚
塹穴住居跡、古墳初期の塹穴
住居4軒跡を発見
海岸砂地には人々が住む場所
として適しなないと予想されていた。
より古くから人々が住むに十分適し
ていたとわかった。



姉崎妙経寺遺跡(5号墳)



姉崎妙経寺遺跡全体図

○ 今富塚古墳 4世紀前半(古墳時代前期)

前方後円墳 全長 120^m前方部 巾 31^m 後円部径 72^m" 高さ 7^m " 高さ 12^m (高低差 5^m)" 長さ 40^m くびれ部巾 24^m 高さ 6^m

平成3年初めて確認調査が行われ本格的な大型前方後円墳であることが判明した。

埋葬施設の木炭層を確認した (下記参考写真)

墳丘は前方半分が寺の施設で削られ 後円部は臨海部造成埋立の用土として大きく崩されている。又くびれ部に道路に造られ墳丘の大半が破壊されている。かろうじて前方部が細長く低い古式の前方後円墳と伺える。

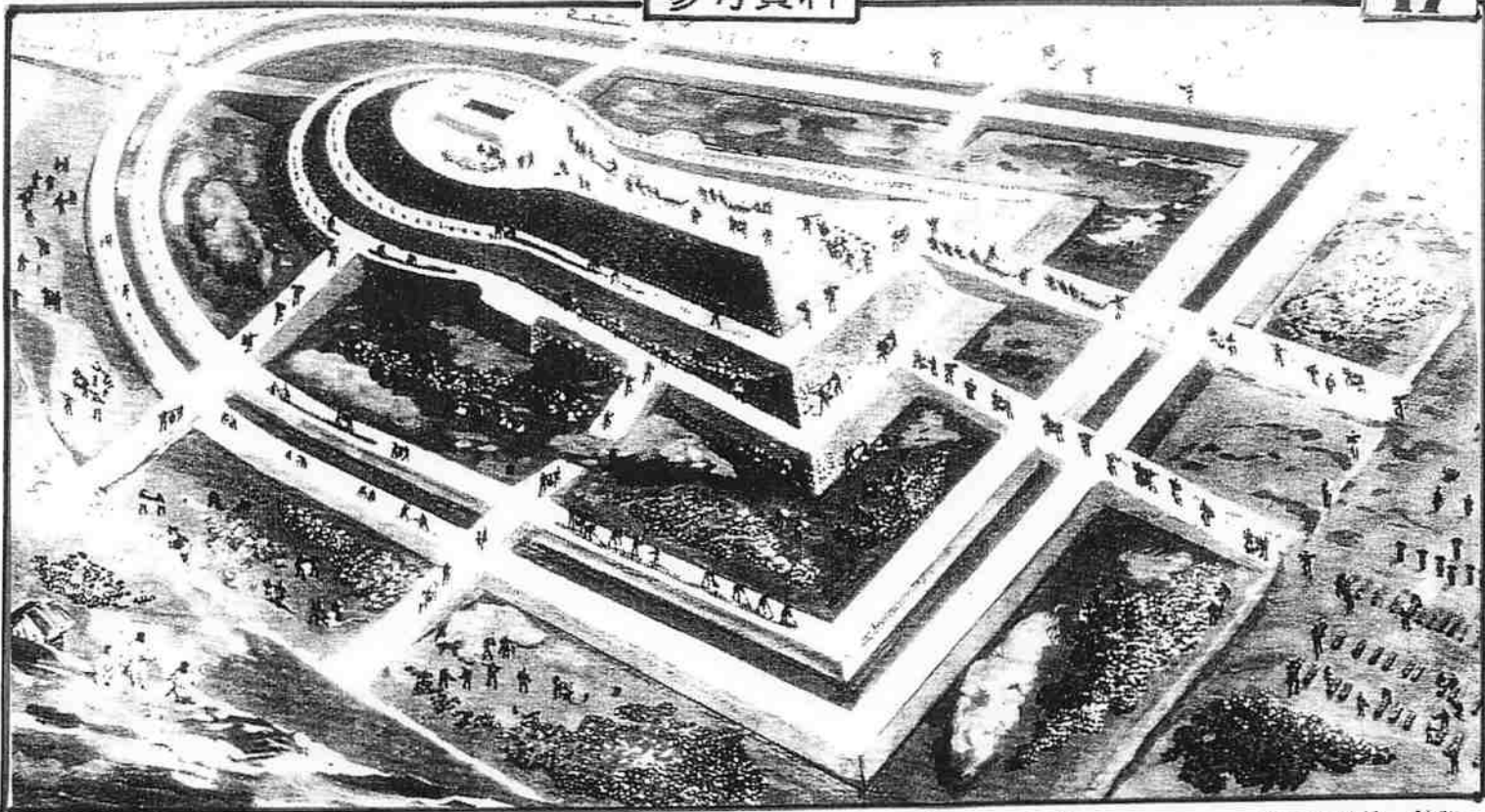
築造は姉崎古墳群の中では最初の頃に造られた首長墓と思われる。周溝はわずかな痕跡から巾7.5^mと推定される。

今富塚古墳

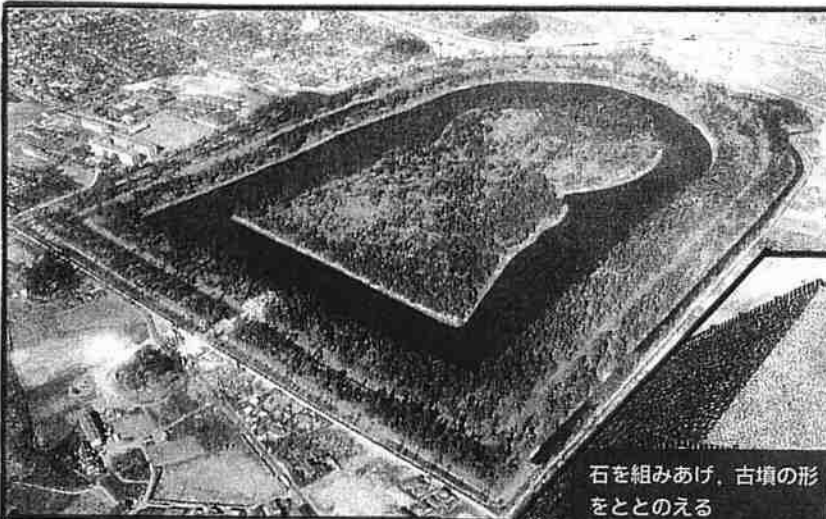
- (注) この古墳の南西700^mの台地には小さな古墳が点在している
又北東500^mの所には今富庵寺がある。

今富塚山古墳、砂取りのため掘削のとき鈴木仲秋先生の撮影のもの。木炭の層の中央がくぼみU字型になっている。
木棺の腐食によりなくなり棺の上に敷いた木炭が落ち込んだものと思われる。





古墳築造の想定図 大阪府の古墳時代中期の前方後円墳の発掘調査によって得られた資料をもとにして、大古墳築造の想定図が作成された。仁徳陵の築造には、1日1000人動員したとしても4年間かかるという。大阪市立博物館蔵。



仁徳天皇陵 大阪府堺市

5世紀前 全長475mの前方後円墳

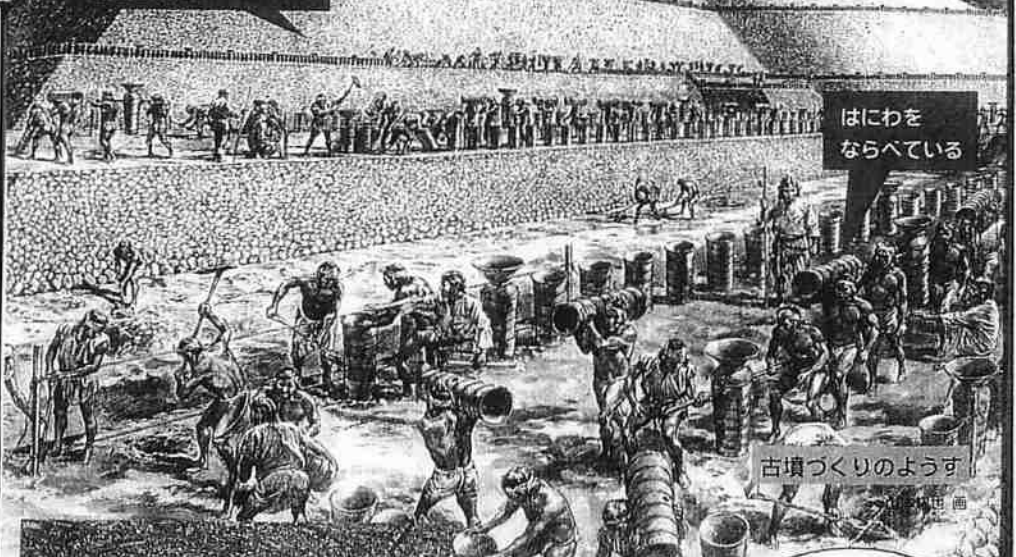
世界最大規模の墳墓

こふん

力をつけた豪族たちによって、小山のような大きな墓（古墳）がつけられた。古墳のつけられた時代、大和の大王によって國の統一が進み、大陸から技術や文化が伝わった。

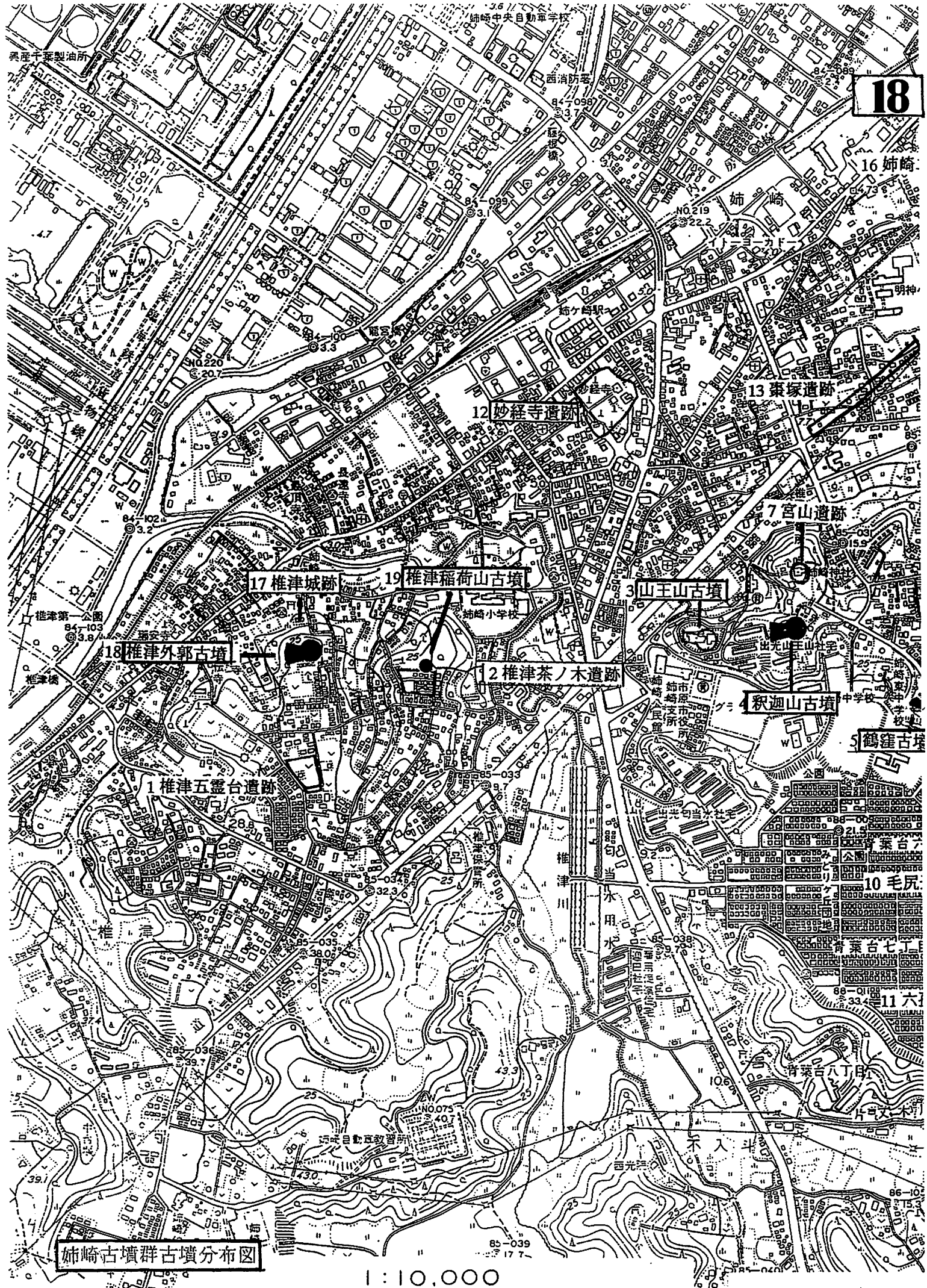
石を組みあげ、古墳の形をととのえる

仁徳天皇、民のかまどの煙を望み、たまう



はにわをならべている

古墳つくりのようす



姉崎古墳群古墳分布図

1 : 10,000

0 100 500 1000

美産子葉製油所

姉崎中央自動車学校

西消防署

姉崎

藁塚

宮山

釈迦山

鶴窪

1 椎津五霊台遺跡

2 椎津茶ノ木遺跡

3 山王山古墳

5 鶴窪古墳

17 椎津城跡

19 椎津稻荷山古墳

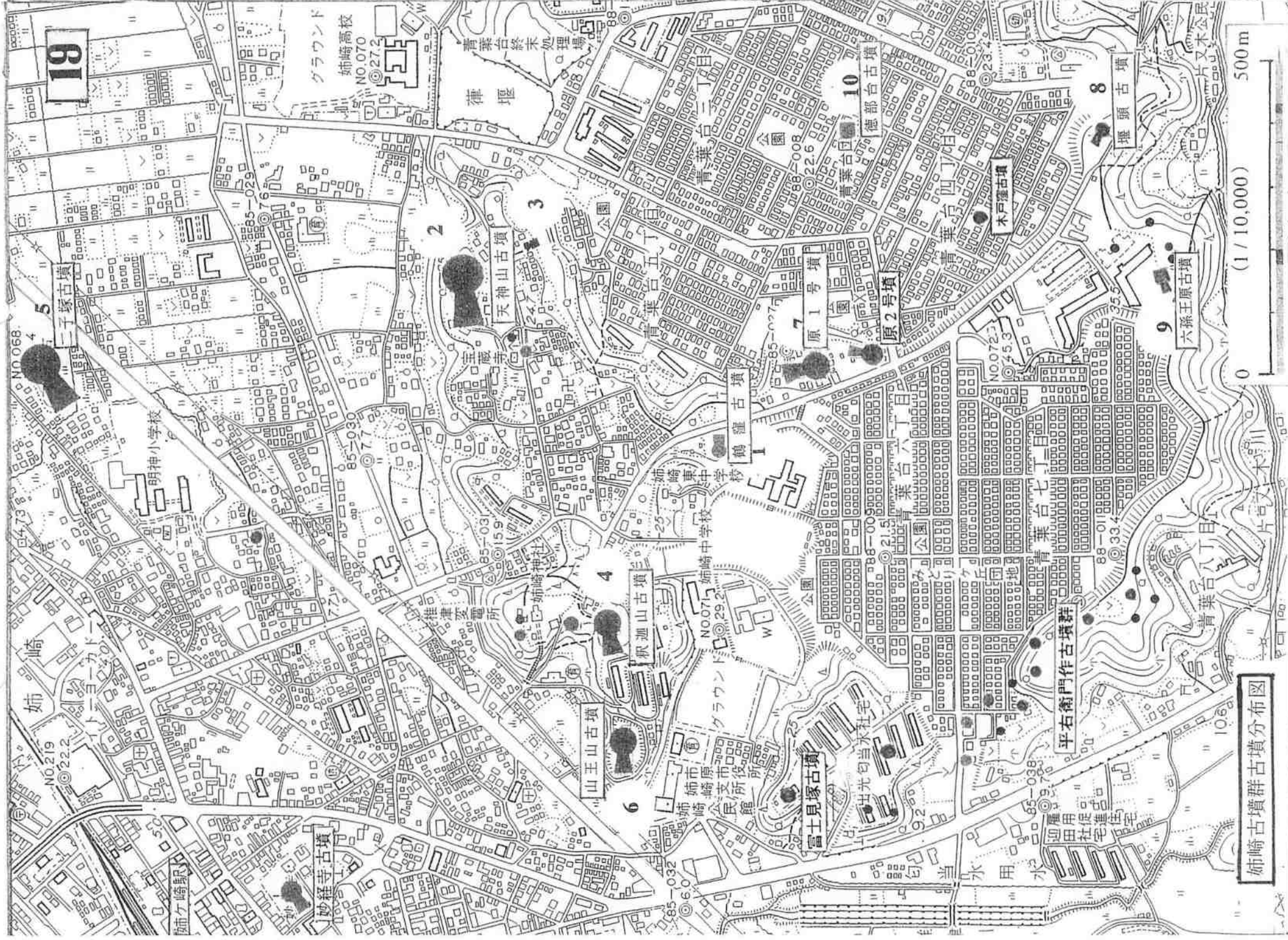
18 椎津外郭古墳

12 妙経寺遺跡

13 藁塚遺跡

16 姉崎

姉崎古墳群古墳分布図



佈崎古墳群古墳分布図

(1/10,000)

500 m

19

平右衛門作古墳群

揮頭古墳

六孫王原古墳

木戸塚古墳

10

原2号墳

原1号墳

山王山古墳

釈迦山古墳

天神山古墳

2

3

妙経寺古墳

5

明神小学校

姉崎

子塚古墳

4

NO.068

NO.219

NO.22.2

姉崎駅

姉崎高校

NO.070

27.2

グラウンド

青葉台終末処理場

律壇

88

85-029

85-030

85-031

85-032

85-033

85-034

85-035

85-036

85-037

85-038

85-039

85-040

85-041

85-042

85-043

85-044

85-045

85-046

85-047

85-048

85-049

85-050

85-051

85-052

85-053

85-054

85-055

85-056

85-057

85-058

85-059

85-060

85-061

85-062

85-063

85-064

85-065

85-066

85-067

85-068

85-069

85-070

85-071

85-072

85-073

85-074

85-075

85-076

85-077

85-078

85-079

85-080

85-081

85-082

85-083

85-084

85-085

85-086

85-087

85-088

85-089

85-090

85-091

85-092

85-093

85-094

85-095

85-096

85-097

85-098

85-099

85-100

85-101

85-102

85-103

85-104

85-105

85-106

85-107

85-108

85-109

85-110

85-111

85-112

85-113

85-114

85-115

85-116

85-117

85-118

85-119

85-120

85-121

85-122

85-123

85-124

85-125

85-126

85-127

85-128

85-129

85-130

85-131

85-132

85-133

85-134

85-135

85-136

85-137

85-138

85-139

85-140

85-141

85-142

85-143

85-144

85-145

85-146

85-147

85-148

85-149

85-150

85-151

85-152

85-153

85-154

85-155

85-156

85-157

85-158

85-159

85-160

85-161

85-162

85-163

85-164

85-165

85-166

85-167

85-168

85-169

85-170

85-171

85-172

85-173

85-174

85-175

85-176

85-177

85-178

85-179

85-180

85-181

85-182

85-183

85-184

85-185

85-186

85-187

85-188

85-189

85-190

85-191

85-192

85-193

85-194

85-195

85-196

85-197

85-198

85-199

85-200

85-201

85-202

85-203

85-204

85-205

85-206

85-207

85-208

85-209

85-210

85-211

85-212

85-213

85-214

85-215

85-216

85-217

85-218

85-219

85-220

85-221

85-222

85-223

85-224

85-225

85-226

85-227

85-228

85-229

85-230

85-231

85-232

85-233

85-234

85-235

85-236

85-237

85-238

85-239

85-240

85-241

85-242

85-243

85-244

85-245

85-246

85-247

85-248

85-249

85-250

85-251

85-252

85-253

85-254

85-255

85-256

85-257

85-258

85-259

85-260

85-261

85-262

85-263

85-264

85-265

85-266

85-267

85-268

85-269

85-270

85-271

85-272

85-273

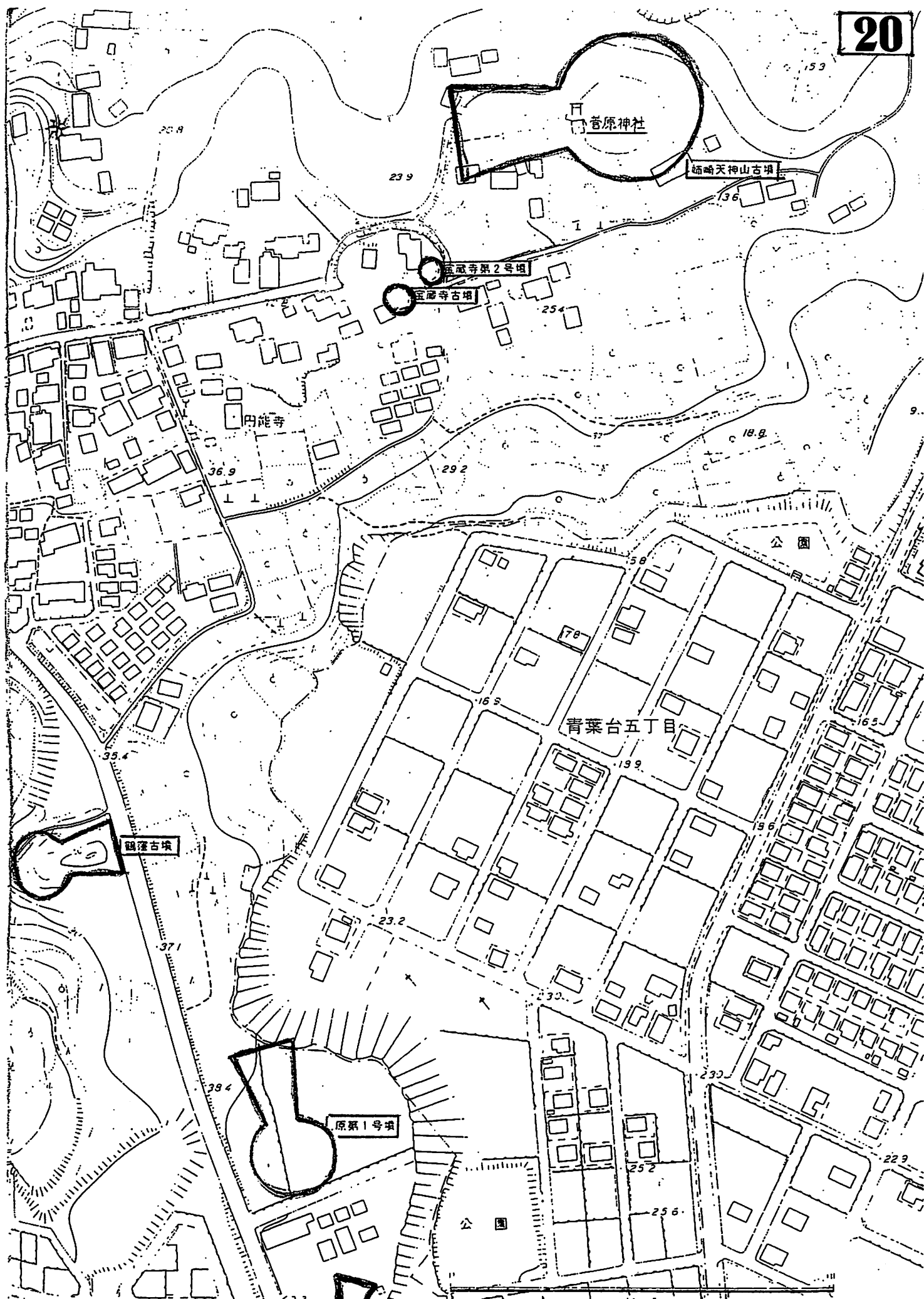
85-274

85-275

85-276

85-277

85-278



菅原神社

延慶寺古墳

延慶寺第2号墳

延慶寺古墳

延慶寺

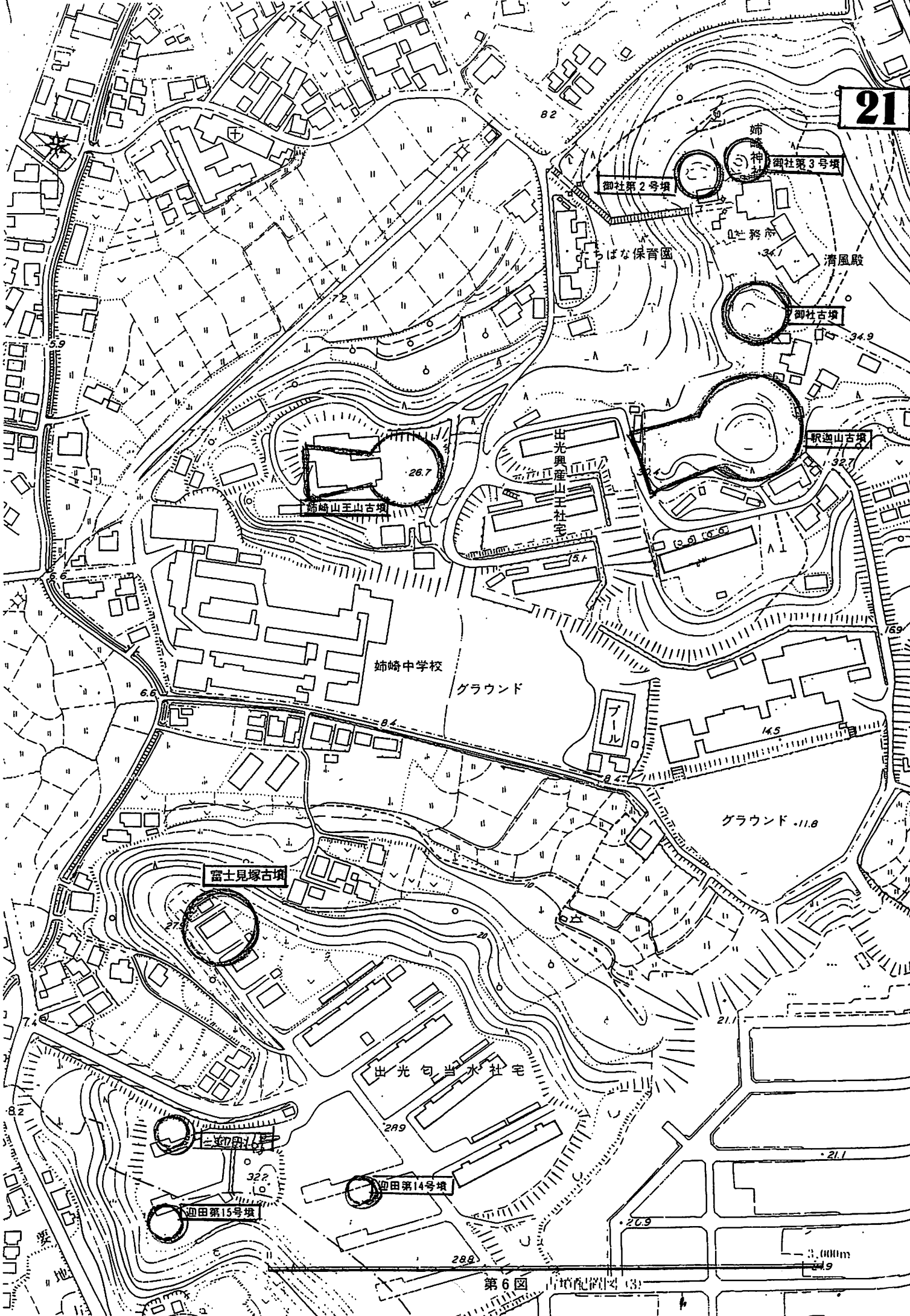
鶴塚古墳

原第1号墳

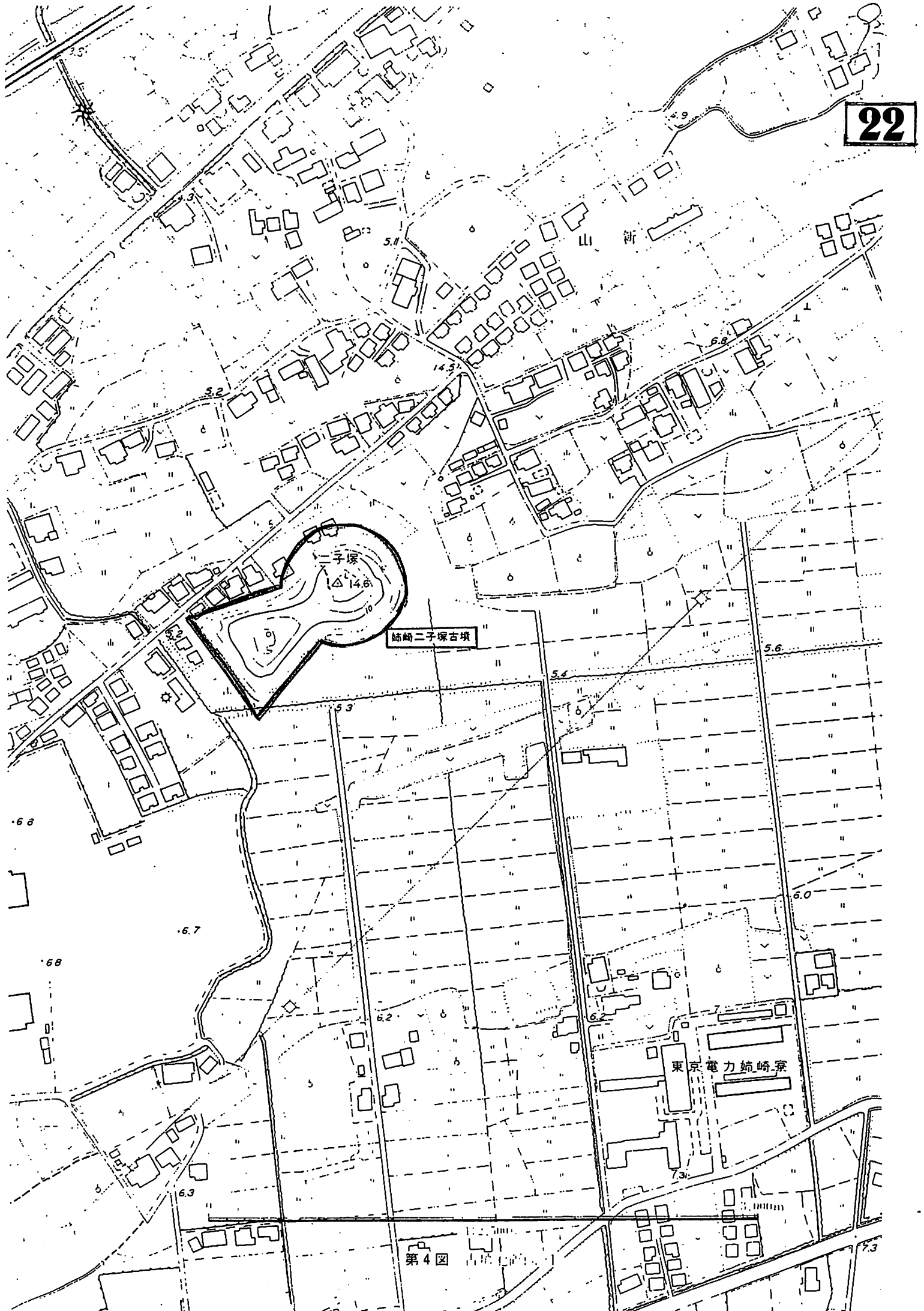
青葉台五丁目

公園

公園



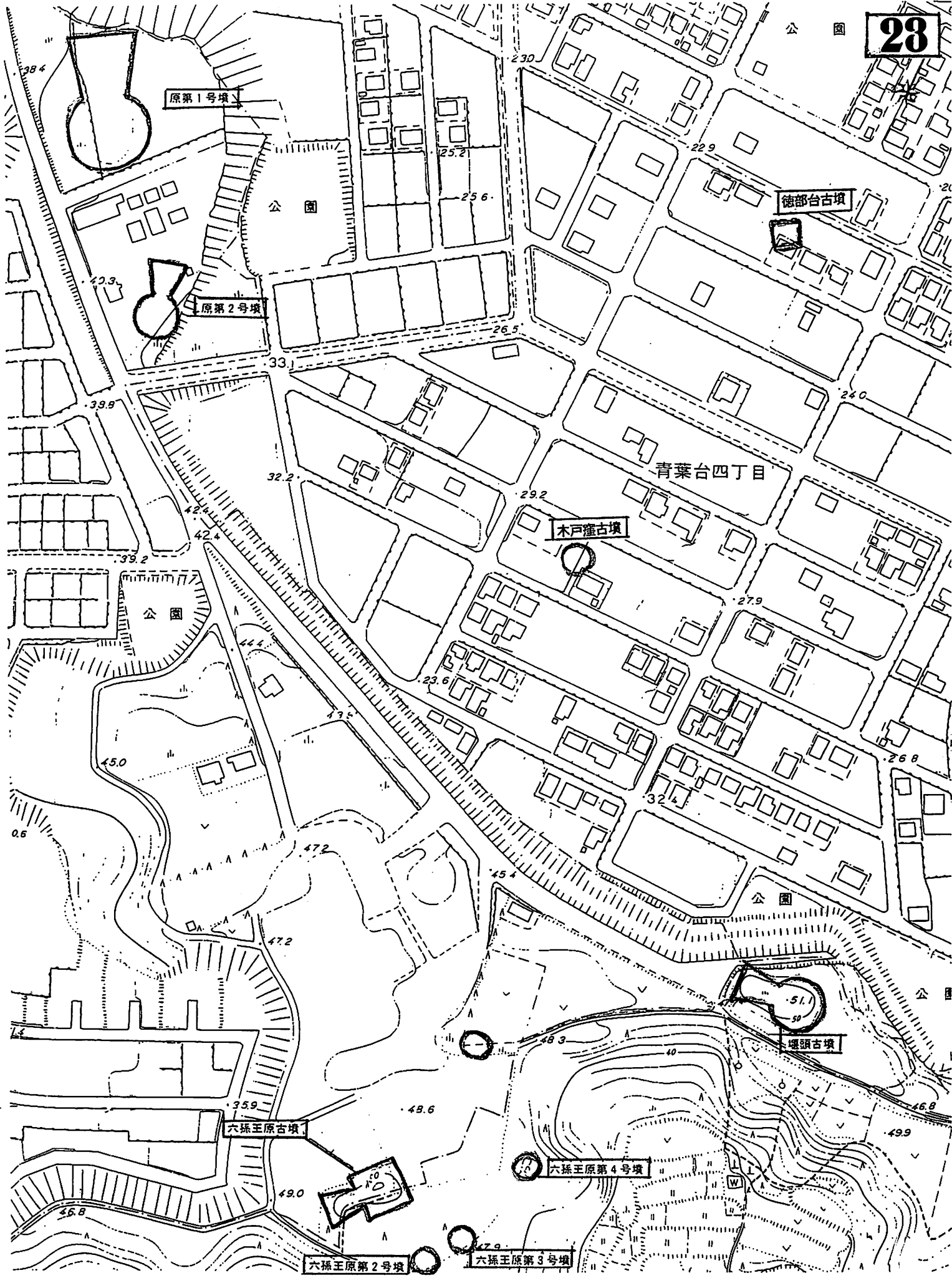
第6図 古墳配置図(3)

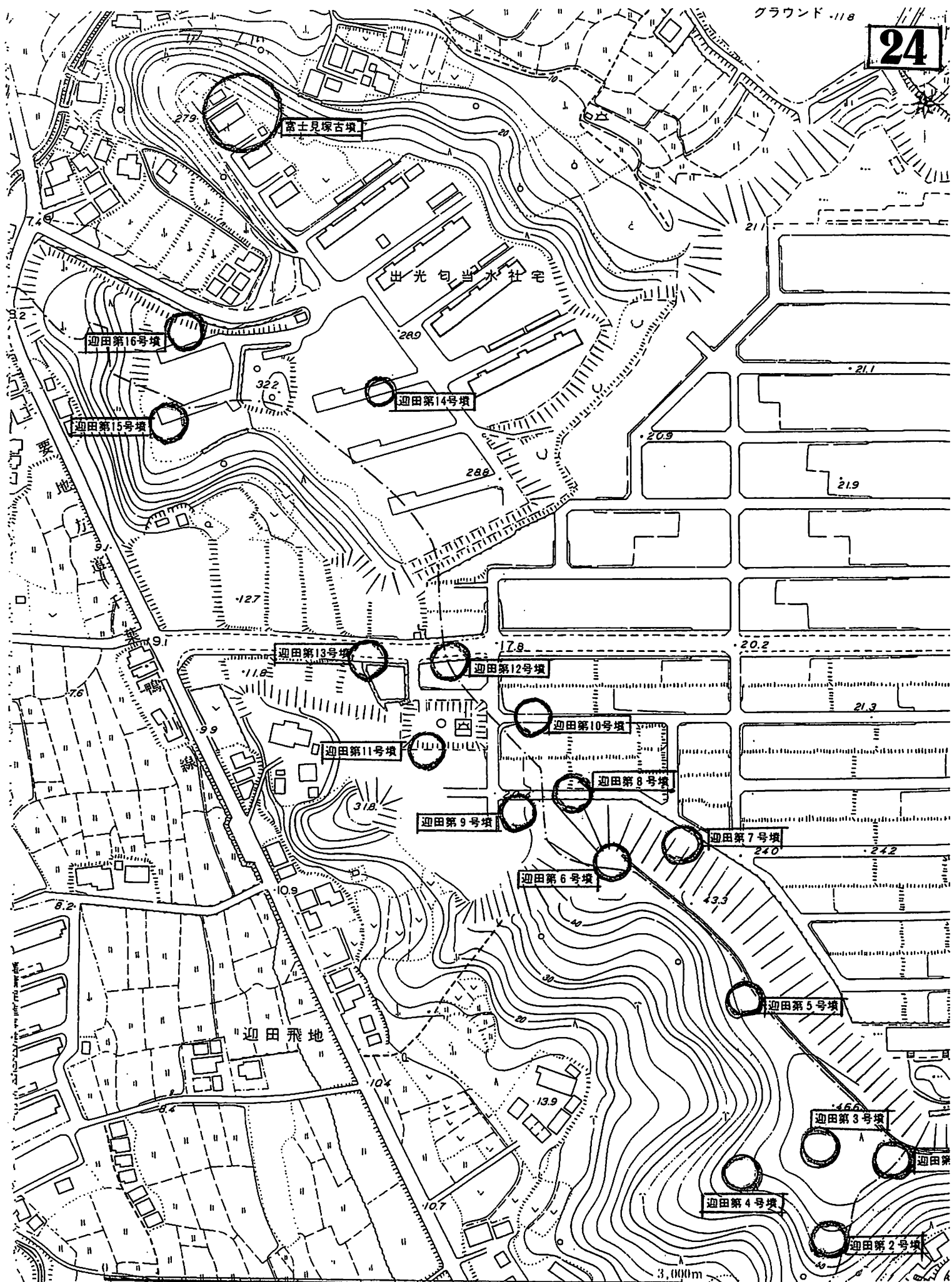


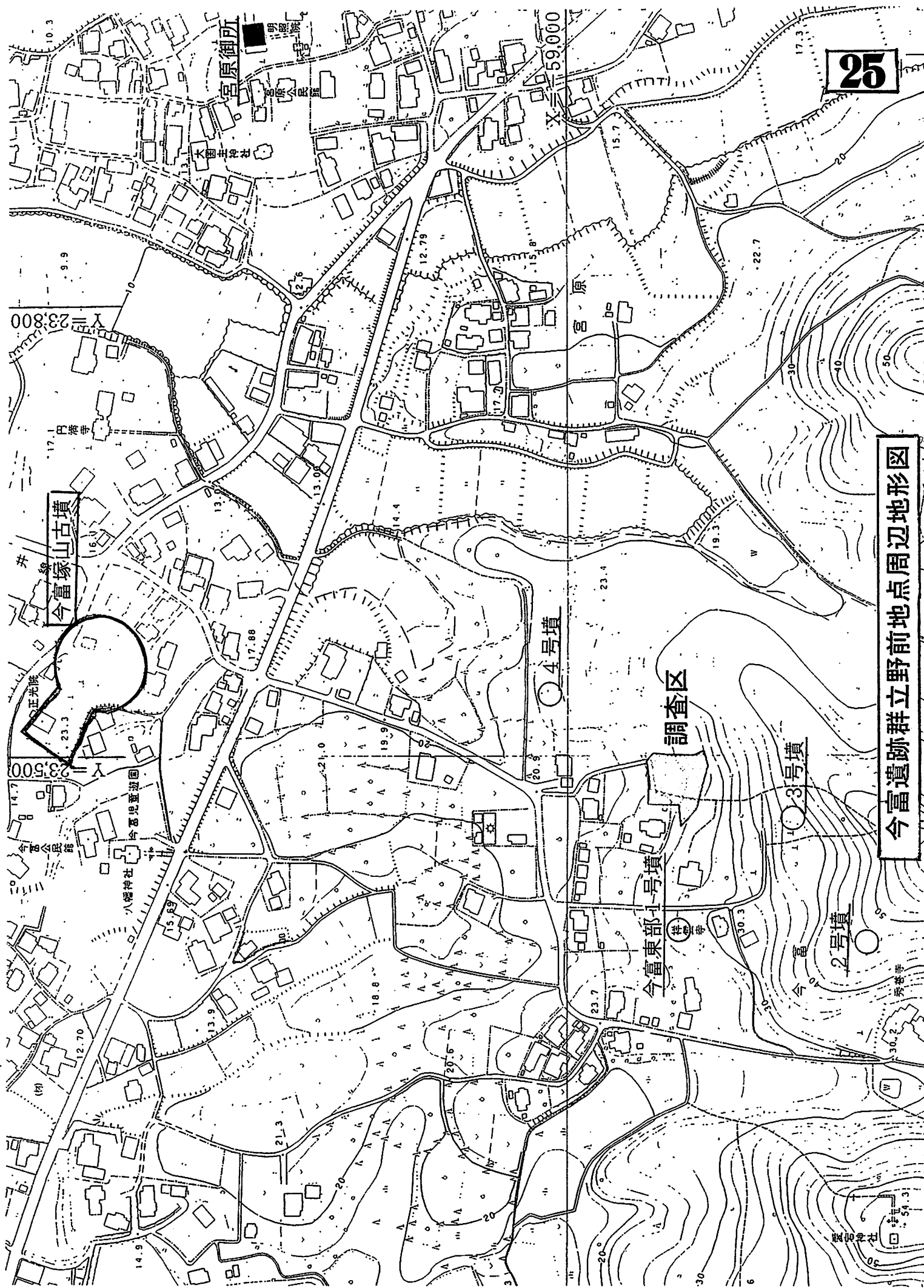
姉崎二子塚古墳

東京電力姉崎寮

第4図







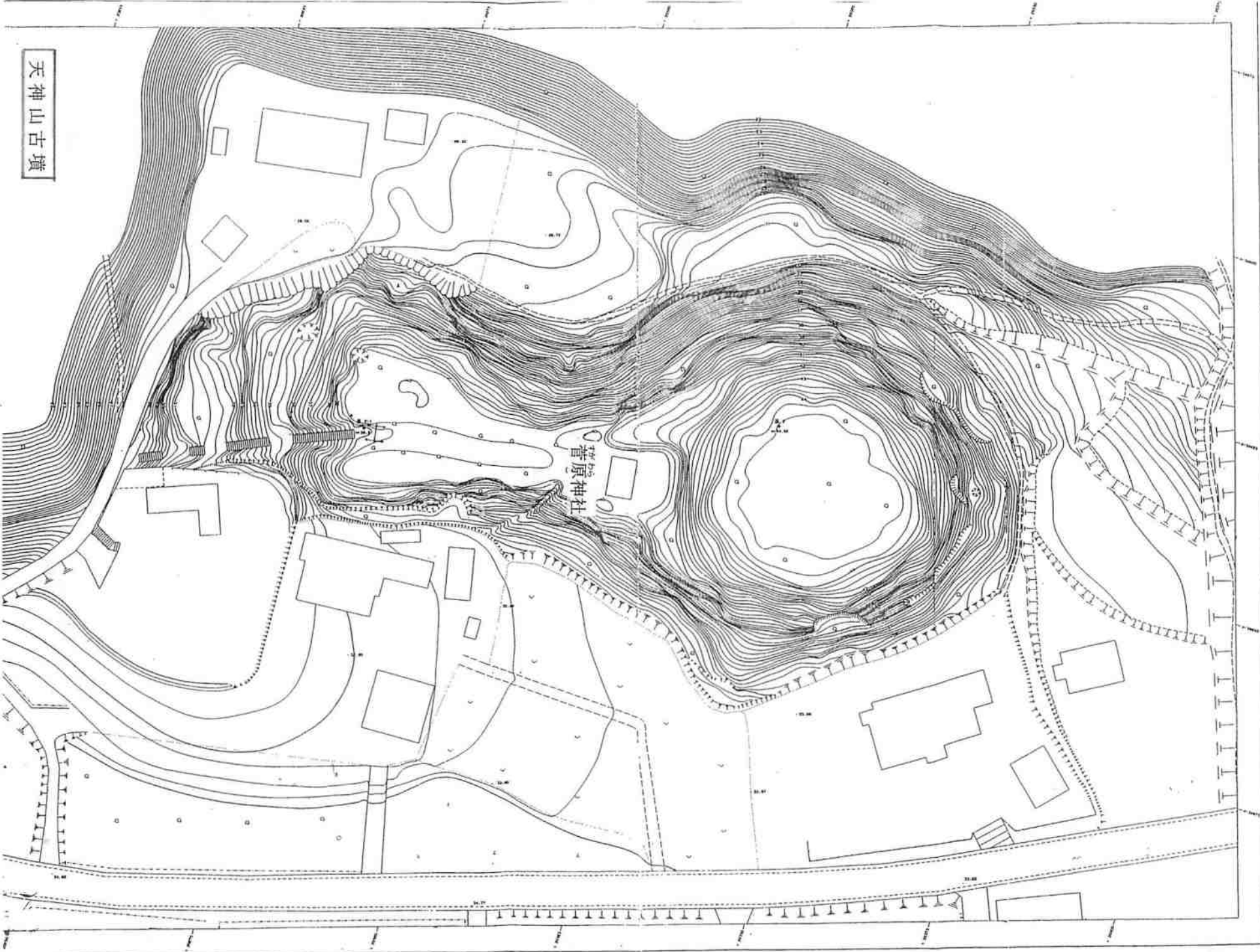
今富遺跡群立野前地点周辺地形図



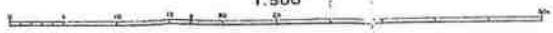
今富塚山古墳墳丘復原図 (1:800)



天神山古墳

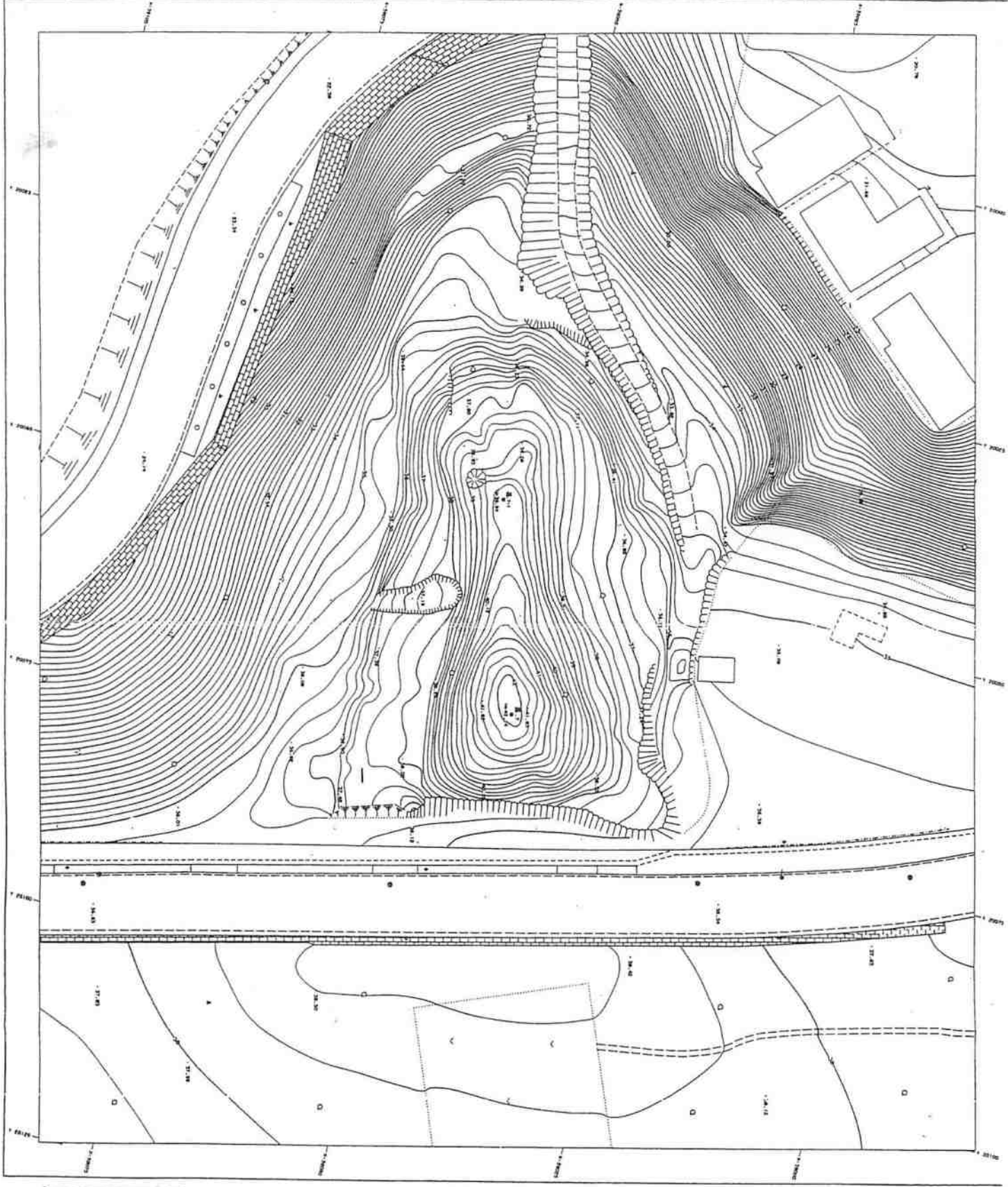


1:500

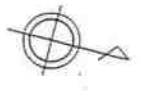


第10圖 姉崎天神山古墳測量圖

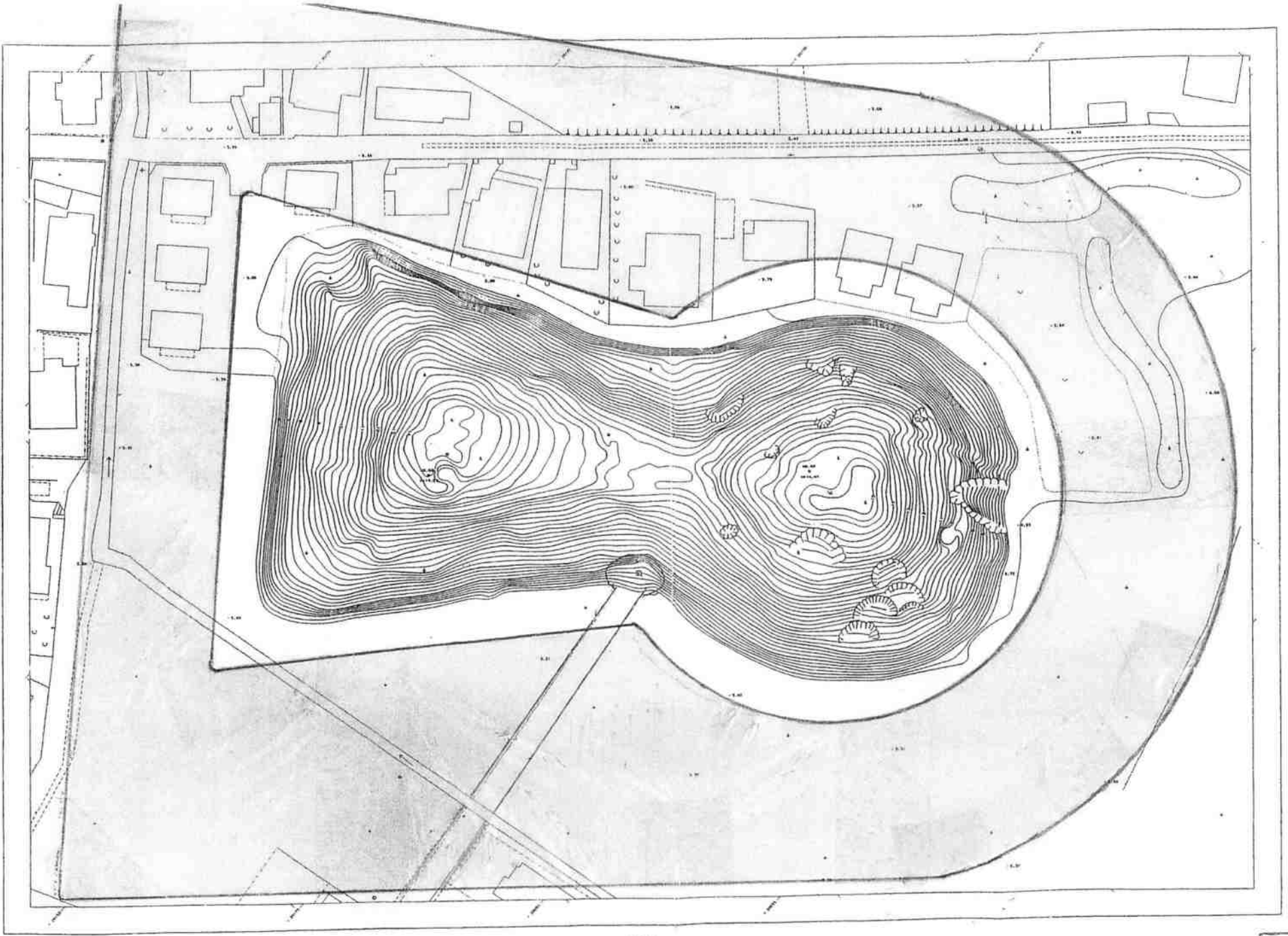




鶴窪古墳

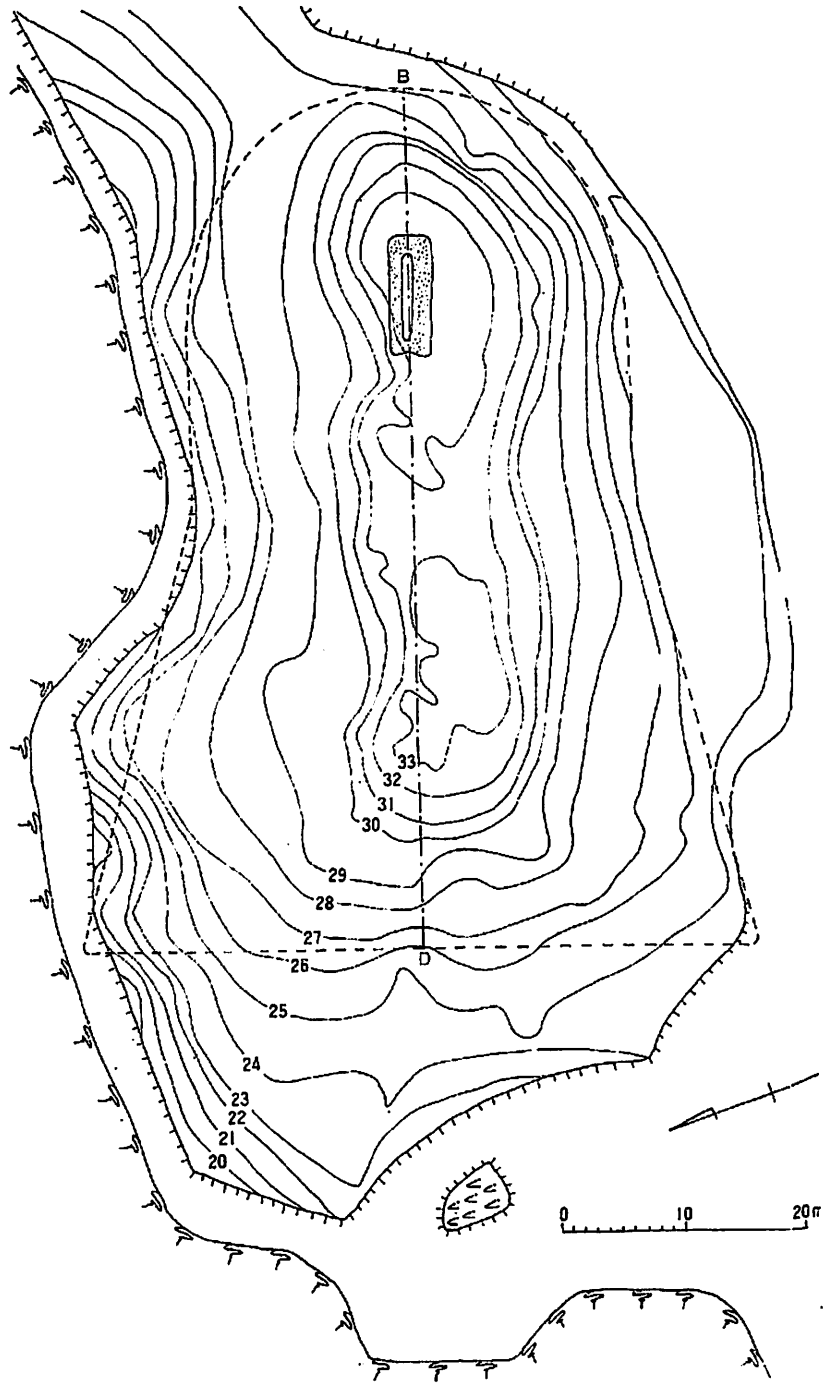


二子塚古墳

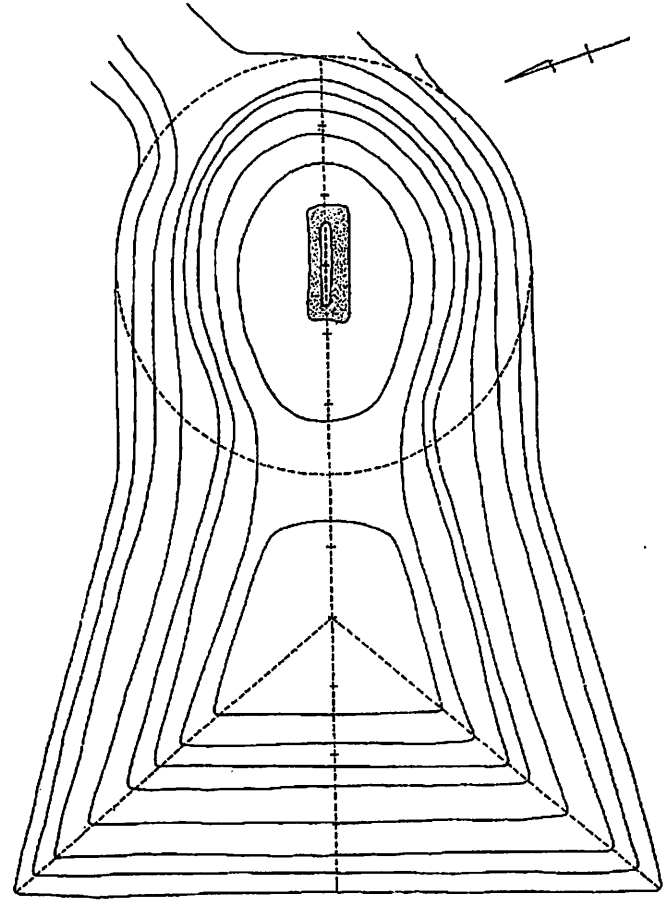


第9圖 縮繪二子塚古墳測量圖

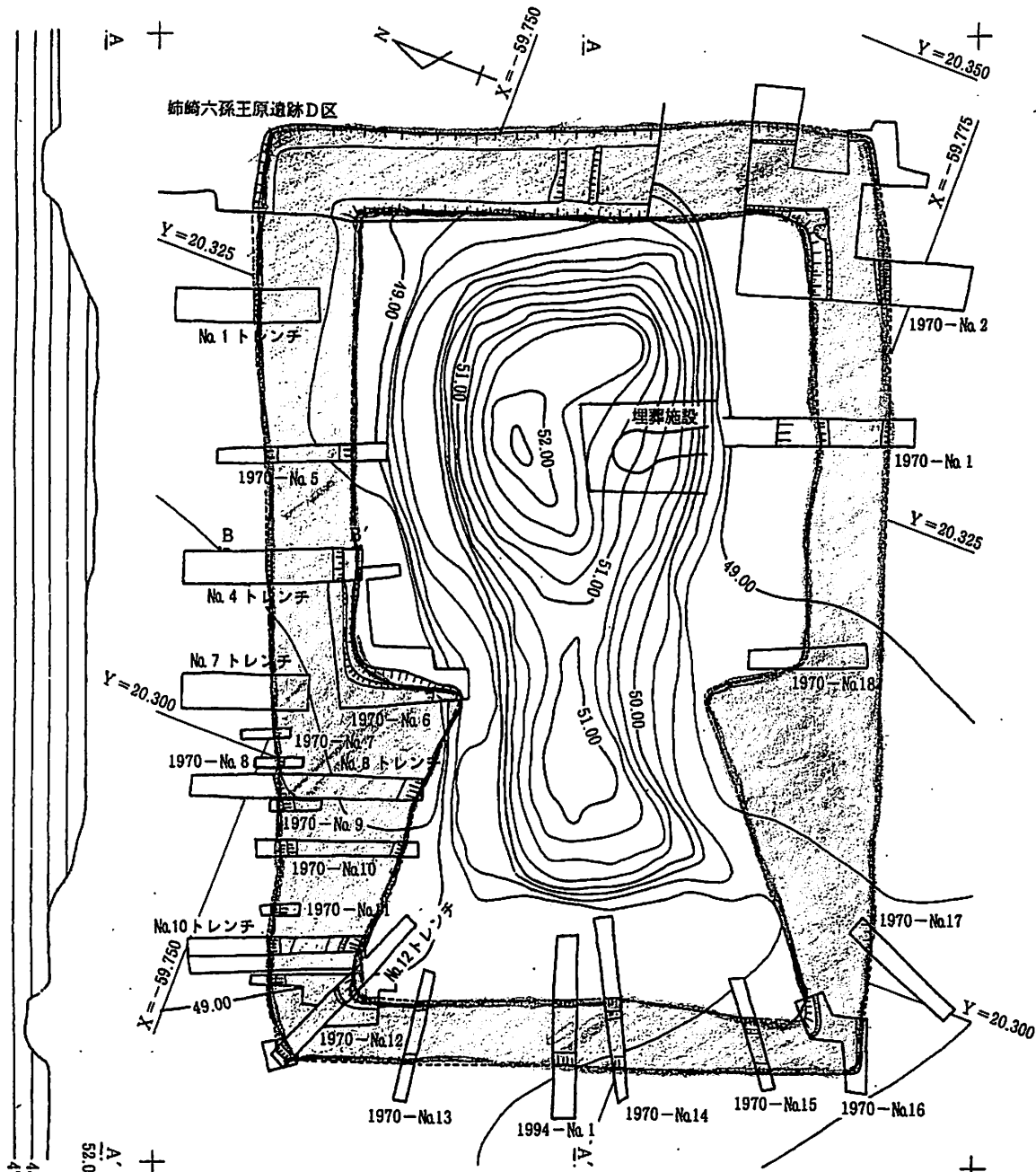
山王山古墳



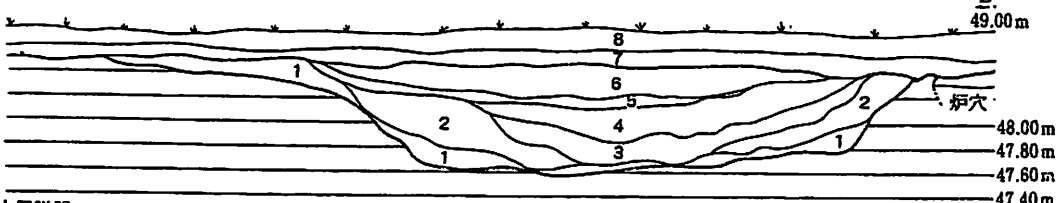
第20圖 墳形復原圖 I



第21圖 墳形復原圖 II



※1970-Noのトレンチは、1970年に実施した調査のものである。
文献 中村恵次ほか(1975)



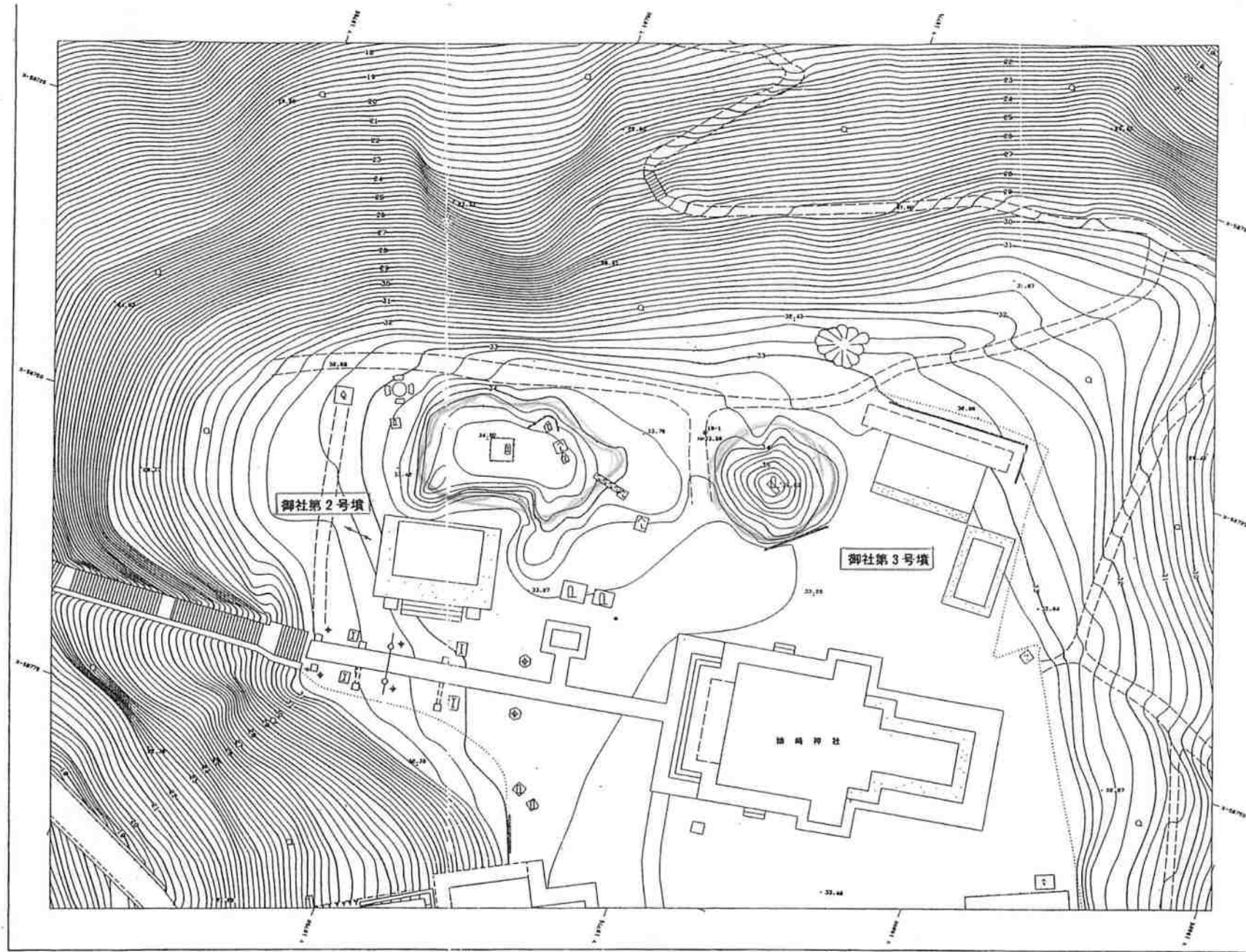
No. 4 トレンチ土層説明

1. ローム土のブロックが混入する褐色土。
2. 暗褐色土。褐色土が混入する。
3. 明褐色土にローム粒が混入する。
4. 黒色土に褐色土が混入する。
5. 黒色土。しまりが良く、通路として利用されたか。
6. 褐色土中に暗褐色土が混入する。焼土も含んでいる。
7. 褐色土にローム土が混入する。
8. 耕作土。

長軸にみる古墳の規模

周溝外側立上がり	52.53m	周溝内側立上がり	45.13m
周溝外側底面コーナー	51.15m	周溝内側底面コーナー	45.70m

六孫王原古墳全体図 (『平成六年度市原市内遺跡発掘調査報告』より)



御社2号墳、3号墳

1:500



第12図 姉崎古墳群御社第2号墳・第3号墳測量図